令和７年度
（2025）

大学院
入学試験要項

工学研究科

《一般入学試験》
《社会人入学試験》
《外国人留学生入学試験》

福岡大学

工 学 研 究 科

人材養成及び教育研究上の目的

工学研究科は，高度な専門知識の実践的活用により科学技術分野の発展に寄与するとの教育理念の下に人材育成を行う。

修士課程・博士課程前期では，急速な深化と拡大を続けている先端工学の分野で，高度な技術の開発・研究に携わり，社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。

機械工学専攻においては，工学の開発・研究の分野で貢献するため，機械工学における幅広い知識と総合的視野を持ち，論理的思考及び総合的応用能力を有する人材を育成することを目的とする。

電気工学専攻においては，開発・研究に携わる人材を育成すると同時に，電気工学を核に幅広い工学分野に対処できる技術者を育成することを目的とする。

電子情報工学専攻においては，エレクトロニクス，通信及び情報を中心に進められている技術革新を担うことができる高度な知識と研究能力を有する人材を育成することを目的とする。

化学システム工学専攻においては，化学工学及び分子工学の分野に関する先端的な知識や高度な専門技術を有し，持続可能な社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。

建設工学専攻においては，高度で専門的な能力を有し国内外において幅広く活動する社会の器としての人に優しい物的環境の創造に携わる人材を育成することを目的とする。

資源循環・環境工学専攻においては，文理融合型大学院として環境分野における実践的教育による学力の向上と環境マインドを有する人材を育成することを目的とする。

博士課程後期では，修士課程・前期課程の６専攻を２専攻に集約し，さらに時代の要請にタイムリーに対応できるよう，社会科学，自然科学と工学の分野連携による学際プログラムを設置して，今日の社会が抱える技術的な諸問題に対し，専門的かつ先駆的考究を加え，新たな解決法を創造する。また，各分野の学会等を通じて新たな学術的知見を提供することによってグローバルな社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。

エネルギー・環境システム工学専攻においては，エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成，変換，伝達及び輸送に関する研究，環境問題に対処するための都市環境，廃棄物の処理・再資源化技術，環境に優しい材料の開発，環境に適合した化学プロセスや装置の研究などを通して，高度な研究者，技術者を育成することを目的とする。

情報・制御システム工学専攻においては，情報処理，情報伝送，システム制御及び機能デバイスの領域において，最先端の研究・開発を行うことにより自立的に問題を解決する能力を有し，情報社会や基礎産業の変化に対応できる広い視野と思考力を備え，高度な専門性をもって国際社会に貢献できる技術者及び研究者を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

工学研究科では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

【修士課程・博士課程前期】

（求める学生像）

企業等で研究・開発に携わる目標を持っている人，あるいは大学等の研究者を志向する人を対象とする。

（入学者選抜の在り方）

一般，推薦，社会人，外国人留学生入試があり，秋季と春期の年2回実施される。一般入試では筆記試験と面接により基礎学力と意欲を確認し，選抜される。推薦入試では，基礎学力を認められる福岡大学工学部の成績優秀者に対して，面接により意欲を確認する。社会人入試では，書類審査，小論文，面接により基礎学力と意欲を確認し，選抜される。外国人留学生入試では，筆記試験と面接により基礎学力と意欲を，語学検定試験のスコアにより日本語および英語のコミュニケーション能力を，それぞれ確認し，選抜される。

【博士課程後期】

（求める学生像）

専門分野に関心を持ち，主体的な研究活動に意欲を持つ人を対象とする。

（入学者選抜の在り方）

一般，社会人，外国人留学生入試があり，秋季と春季の年２回実施される。英語，小論文，専門試験，口頭試問を実施して研究歴や研究計画を確認し，将来性のある有望な人材が選抜される。

【機械工学専攻】

工学研究科機械工学専攻では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

（求める学生像）

将来，機械工学関連の企業で研究・開発に携わる目標を持っている人，あるいは大学等での研究者を志向する人を対象とする教育を行う。したがって，①機械工学分野の高度な専門技術者・研究者を目指す意欲・熱意にあふれる人，②機械工学に関する基礎的な知識・技能を有している人，③機械工学の研究を行うために必要な応用力と創造性に富む人，を求める学生像とする。

（入学者選抜の在り方）

一般入学試験

・機械工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。

・福岡大学機械工学科における成績が特に優秀な学生には，飛び級での一般入学試験の受験を認める。

推薦入学試験

・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学機械工学科の成績優秀者に対しては，面接試験による推薦入学試験を行う。

社会人入学試験

・書類審査，小論文，面接による社会人入学試験を行う。

外国人留学生入学試験

・機械工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。

・日本語および英語コミュニケーション力については，語学検定試験のスコアにより評価する。

【電気工学専攻】

工学研究科電気工学専攻では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

（求める学生像）

電磁気学・電気回路をはじめ，電気工学の専門科目を修得し，研究・開発への意欲を持つ人を求める。

（入学者選抜の在り方）

一般入学試験

・電気工学の基礎学力，文献調査や発表などに必要な英語運用能力を有しているのかおよび勉学の意欲を有しているのか，筆記試験と面接試験で判定する。なお，学部の成績優秀者には推薦入試制度，福岡大学工学部電気工学科で成績が特に優秀な学生には飛び級での一般入試の受験を認める。

推薦入学試験

・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学工学部電気工学科の成績優秀者に対しては，面接試験による推薦入学試験を行う。

社会人入学試験

・書類審査，小論文，面接による社会人入学試験を行う。

外国人留学生入学試験

・一般入試と同様の試験を行う。ただし，最終学校を卒業後日本国内で社会人経験3年以上の者は社会人入学試験と同様の試験を行う。

・日本語および英語コミュニケーション力については，語学検定試験のスコアにより評価する。

【電子情報工学専攻】

工学研究科電子情報工学専攻では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

（求める学生像）

・絶えず技術革新が進むエレクトロニクス，通信及び情報等の分野において，技術開発/研究開発等の高度な業務の遂行を目標とする学生

・電子工学あるいは情報工学の基礎学力を有する学生

・先端技術を学び，高度な知識を習得する意欲を有する学生

［社会人］
・社会人経験を有し，より深く電子情報工学分野を学ぶことで社会に貢献する志を持つ人材
［留学生］
・本専攻で学ぶために必要な電子情報工学に関する基礎学力と日本語および英語による基本的なコミュニケーション力を有し，国際社会に貢献する志を持つ人材
（入学者選抜の在り方）
一般入学試験
・電子情報工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。
・福岡大学電子情報工学科における成績が特に優秀な学生には，飛び級での一般入学試験の受験を認める。
推薦入学試験
・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学電子情報工学科の成績優秀者に対しては，面接試験による推薦入学試験を行う。
社会人入学試験
・書類審査，小論文，面接による社会入学試験を行う。
外国人留学生入学試験
・電子情報工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。
・日本語および英語コミュニケーション力については，語学検定試験のスコアにより評価する。

【化学システム工学専攻】
工学研究科化学システム工学専攻では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
（求める学生像）
化学システム工学専攻では，企業等で化学を基盤とした研究開発やプロセス開発に携わることを目標としている者，あるいは教育・研究機関等での研究者を志向する者の入学を求めている。
（入学者選抜の在り方）
一般入学試験
・化学工学および分子工学分野の学修および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。
・英語力については語学検定試験のスコア，専門英語については筆記試験により評価する。
・福岡大学工学部化学システム工学科における成績が特に優秀な学生には，飛び級での一般入学試験の受験を認める。
推薦入学試験
・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学工学部化学システム工学科の成績優秀者に対しては，面接試験による推薦入学試験を行う。
社会人入学試験
・書類審査，小論文，面接による社会人入学試験を行う。
外国人留学生入学試験
・化学工学および分子工学分野の学修および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。
・日本語および英語コミュニケーション力については，語学検定試験のスコアにより評価する。

【建設工学専攻】
工学研究科建設工学専攻では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
（求める学生像）
建設工学分野の実務的な仕事に対する調和のとれた専門性を身につけ，国内および海外での高度な企業活動に対応できる高等技術者や建築士を目指す人を主に，加えて学校や企業などの研究機関で建設工学分野の研究・教育に携わることを目指す人を求めている。
（入学者選抜の在り方）
一般入学試験
・建設工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。
推薦入学試験
・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学社会デザイン工学科・建築学科の成績優秀者に対しては，面接試験による推薦入学試験を行う。
社会人入学試験
・書類審査，小論文，面接による社会入学試験を行う。
外国人留学生入学試験
・建設工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。
・日本語および英語コミュニケーション力については，語学検定試験のスコアにより評価する。

【資源循環・環境工学専攻】
工学研究科資源循環・環境工学専攻では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
（求める学生像）
・将来資源循環・環境分野の技術開発や研究開発に積極的に携わる人
［社会人］
・社会人経験を有し，より深く環境分野を学ぶことで社会に貢献する志を持つ人材
［留学生］
・本専攻で学ぶために必要な環境工学に関する基礎学力と日本語および英語による基本的なコミュニケーション力を有し，国際社会に貢献する志を持つ人材

（入学者選抜の在り方）
一般入学試験
・環境分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。
推薦入学試験
・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学工学部の成績優秀者に対しては，面接試験による推薦入学試験を行う。
社会人入学試験
・書類審査，小論文，面接による社会入学試験を行う。
外国人留学生入学試験
・環境分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。
・日本語能力語学検定試験のスコアにより評価する。

【エネルギー・環境システム工学専攻】
工学研究科エネルギー・環境システム工学専攻では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
（求める学生像）
本専攻では，人材養成・教育研究上の目的を達成するために，エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成，変換，伝達及び輸送に関する研究，環境問題に対処するための都市環境，廃棄物の処理・再資源化技術，環境に優しい材料の開発，環境に適合した化学プロセスや装置の研究に興味・関心を持っている者，またそれらの深い専門知識と探求創造能力を身につけることに強い意欲を持っている者，さらにそれらを通じて特にエネルギー・環境分野において地域ならびに国際社会に貢献ができ，また高い倫理観を持って工学に携わる高度な研究者や技術者を目指す者の入学を求めている。
（入学者選抜の在り方）
多くの学生や社会人および外国人留学生に進学の門戸を広げるため，次の試験を用意する。
一般入試
・英語，専門試験，面接を実施して研究歴や研究計画を確認する。福岡大学大学院工学研究科博士課程前期修了者は専門試験を免除する。
社会人入試
・小論文，面接（小論文及び研究計画書による口頭試問を行う）を実施する。
外国人留学生入学試験
・一般入試と同様である。ただし，最終学校を修了・退学した後，入学時に日本国内での社会人経験３年以上の者は社会人入学と同じである。
・日本語コミュニケーション・英語コミュニケーションについては，語学検定試験のスコアについて評価する。

【情報・制御システム工学専攻】
工学研究科情報・制御システム工学専攻では，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ，次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
（求める学生像）
専門分野の十分な基礎力，独創的な発想力，学問的な探究心などを有し，自立して積極的に研究活動に取り組む人
［社会人］
専門分野の十分な基礎力，独創的な発想力，学問的な探究心などを有し，社会での実務経験を通して抱いた問題意識を踏まえ，自立して積極的に研究活動に取り組む人
［留学生］
専門分野の十分な基礎力，独創的な発想力，学問的な探究心などを有し，グローバルに活躍する意志を持ち，自立して積極的に研究活動に取り組む人
（入学者選抜の在り方）
一般入試
・情報・制御システム工学分野の研究実施に耐える基礎力を有しているかを英語，専門科目，面接によって判定する。
・情報・制御システム工学分野の研究において自立的に業績をあげる発想力と探究心を有しているかを面接によって判定する。
社会人入試
・情報・制御システム工学分野の研究実施に耐える基礎力，ならびに同分野の研究において自立的に業績をあげる発想力と探究心を有しているかを小論文と面接によって判定する。
外国人留学生入学試験
・情報・制御システム工学分野の研究実施に耐える基礎力を有しているかを英語，専門科目，面接によって判定する。
・情報・制御システム工学分野の研究において自立的に業績をあげる発想力と探究心を有しているかを面接によって判定する。
・日本語および英語コミュニケーション力については，語学検定試験のスコア，ならびに面接によって評価する。

目　　次

※項目名をクリックすると，該当ページにリンクします。

博士課程前期・修士課程《一般入学試験 ・ 社会人入学試験》

1　募集人員 …… 2
2　出願資格 …… 2
3　願書受付期間・入学試験日 …… 3
4　願書受付時間・場所 …… 3
5　出願手続 …… 3
(1)　提出書類その他 …… 3
(2)　入学検定料の納入方法 …… 4
(3)　出願上の注意 …… 4
6　受験票 …… 5
7　試験場・試験会場 …… 5
8　試験科目・試験時間 …… 5
9　合格発表 …… 8
10　入学手続 …… 8
(1)　入学に要する経費等 …… 8
(2)　入学辞退について …… 8
11　各専攻の学生募集専修部門・指導教員及び授業科目・履修方法等の概要 …… 9
●機械工学専攻 …… 9
●電気工学専攻 …… 10
●電子情報工学専攻 …… 11
●化学システム工学専攻 …… 13
●建設工学専攻 …… 15
●資源循環・環境工学専攻 …… 17
12　その他 …… 19
◇　既修得単位認定制度 …… 19
◇　奨学金制度 …… 19
◇　（修士課程・博士課程前期進学予定者対象）特に優れた業績による返還免除内定制度 …… 19
《飛び級受験》について …… 20

博士課程後期《一般入学試験》《社会人入学試験》

1　募集人員 …… 24
2　出願資格 …… 24
3　願書受付期間・入学試験日 …… 24
4　願書受付時間・場所 …… 25
5　出願手続 …… 25
(1)　提出書類その他 …… 25
(2)　入学検定料の納入方法 …… 25
(3)　出願上の注意 …… 25
6　受験票 …… 26
7　試験場・試験会場 …… 26
8　試験科目・試験時間 …… 27

9　合格発表 …… 27
10　入学手続 …… 27
⑴　入学に要する経費等 …… 28
⑵　入学辞退について …… 28
11　各専攻の学生募集専修部門・指導教員及び授業科目・履修方法等の概要 …… 29
●エネルギー・環境システム工学専攻 …… 29
●情報・制御システム工学専攻 …… 32
12　その他 …… 34
◇　既修得単位認定制度 …… 34
◇　奨学金制度 …… 34

《外国人留学生入学試験》博士課程前期・修士課程・博士課程後期

1　募集人員 …… 36
2　出願資格 …… 36
3　願書受付期間・入学試験日 …… 37
4　願書（第１次選考書類）受付時間・場所 …… 37
5　出願手続 …… 37
⑴　提出書類その他 …… 37
⑵　第１次選考（書類審査及び出願資格審査）について …… 43
⑶　第２次選考検定料（入学検定料）の納入方法 …… 43
⑷　出願上の注意 …… 43
6　受験票及び受験許可書 …… 44
7　試験場・試験会場 …… 44
8　試験科目・試験時間 …… 44
9　合格発表 …… 44
10　入学手続 …… 44

（巻　末）

◇　個人情報の取扱いについて
◇　福岡大学大学院長期履修制度について

博　士　課　程　前　期　・　修　士　課　程

《一般入学試験・社会人入学試験》

博士課程前期・修士課程《一般入学試験・社会人入学試験》

1 募 集 人 員

研究科名	専攻名	課程名	標準修業年限	入学定員
工学研究科	機械工学専攻	博士課程前期	2年	10名
	電気工学専攻			10名
	電子情報工学専攻			10名
	化学システム工学専攻			10名
	建設工学専攻			10名
	資源循環・環境工学専攻	修士課程		10名

※入学定員には，専攻で実施するすべての入学試験の人員を含みます。

2 出 願 資 格

※外国籍を有する方（定住者・永住者・特別永住者を除く）は外国人留学生入学試験を受験してください。博士課程前期の外国人留学生入学試験については，36頁を参照してください。

《一般入学試験》	《社会人入学試験》
次のいずれかの条件に該当する者 ①学校教育法第83条の大学を卒業した者及び令和7年3月までに卒業見込みの者 ②学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者（大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者）及び令和7年3月までに学士の学位を授与される見込みの者 ③外国において，学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7年3月までに修了見込みの者 ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7年3月までに修了見込みの者 ⑤我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和7年3月までに修了見込の者 ⑥外国の大学その他の外国の学校*1)において，修業年限が3年以上である課程を修了すること*2)により，学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者 ＊1）その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。 ＊2）当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。 ⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和7年3月までに修了見込の者 ⑧文部科学大臣の指定した者 ⑨学校教育法第102条第2項の規定（飛び級入学）により大学院に入学した者であって，本学の大学院において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの(注) ⑩本学の大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，22歳に達したもの及び令和7年3月までに達するもの(注)	次のいずれかの条件に該当する者で，最終学校を卒業・修了・退学した後，入学時に社会人経験3年以上の者 ①学校教育法第83条の大学を卒業した者（但し，令和4年3月以前に卒業した者） ②学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者（大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者）及び令和7年3月までに学士の学位を授与される見込みの者 ③外国において，学校教育における16年の課程を修了した者（但し，令和4年3月以前に修了した者） ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者（但し，令和4年3月以前に修了した者） ⑤我が国において，外国の大学の課程（その修了者 が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者（ 但し，令和4年3月以前に修了した者） ⑥外国の大学その他の外国の学校*1)において，修業年限が3年以上である課程を修了すること*2)により，学士の学位に相当する学位を授与された者（但し，令和4年3月以前に授与された者） ＊1）その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。 ＊2）当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。 ⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者（但し，令和4年3月以前に修了した者） ⑧文部科学大臣の指定した者 ⑨学校教育法第102条第2項の規定（飛び級入学）により大学院に入学した者であって，本学の大学院において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの(注) ⑩本学の大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，25歳に達したもの及び令和7年3月までに達するもの(注)

(注)：出願資格の⑨，⑩による出願を希望する者は，出願資格審査を行います。4頁【出願資格審査について】を参照してください。

目次に戻る

3　願書受付期間・入学試験日

秋季（1回）と春季（1回）の2回実施します。

募集区分	願書受付期間	入学試験日
秋季入学試験	令和6年8月22日(木)～8月26日(月) （土日除く）	令和6年9月9日（月）
春季入学試験	令和7年1月20日(月)～1月23日(木)	令和7年2月17日（月）

（注）：出願資格の⑨，⑩による出願を希望する者は，書類提出期間が異なります。4頁【出願資格審査について】を参照してください。

4　願書受付時間・場所

①　受付時間：午前10時～午後4時（正午～午後1時を除きます）

②　受付場所・問合せ先

福岡大学　大学院事務課（福岡大学　中央図書館6階）

福岡市城南区七隈八丁目19番1号（〒814-0180）

☎（092）871-6631　内線2913～2916

※郵送の場合は書留郵便とし，受付最終日までに必着とします。

封筒の表には，「工学研究科出願書類在中」と朱書きしてください。

5　出　願　手　続

(1)　提出書類その他

《一般入学試験》	《社会人入学試験》
①志願票（本学所定用紙） 副票・受験票（本学所定用紙） ②最終出身大学等の卒業証明書又は卒業見込証明書 ③最終出身大学等の成績証明書 ④学士の学位証明書又は学位取得見込証明書 （※出願資格②により出願する者のみ） ⑤入学検定料領収書（大学提出） （本学所定の台紙に貼り付けられていること） ⑥住所シート（本学所定用紙） ⑦英語能力を証明する書類（以下の専攻のみ） ・機械工学専攻 TOEIC L&R[注2]，TOEFL（PBT，CBT，iBT）[注3]，英検，IELTS のスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ・電気工学専攻 TOEIC L&R[注2]のスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ・電子情報工学専攻 TOEIC L&R[注2]，TOEFL（PBT, CBT, iBT）[注3]，IELTSのスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません））ただし TOEIC L&R は 300点以上，TOEFL PBT は403点以上，TOEFL CBT は97点以上，TOEFL iBT は32点以上，IELTS は3.5点以上であること。 ・化学システム工学専攻 TOEIC L&R[注2]，TOEFL[注3]またはIELTSのスコア証明書（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ・建設工学専攻 TOEIC L&R[注2]またはTOEFL[注3]のスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ⑧出願動機及び希望研究課題（資源循環・環境工学専攻のみ） ※ 400 字以上，A 4 縦長・横書き （上部に志望専攻・志望専修名及び志願者氏名を記入してください）	①志願票（本学所定用紙） 副票・受験票（本学所定用紙） ※「志願票」裏面の履歴書の記入について ・職歴及び実務経験を記入してください。 ・業績（研究論文，学会発表，特許　等）がある者は記入してください。 ・専門性に係る資格を保有している者は記入してください。 ②出身大学の卒業証明書 ③～⑥　左記の③④⑤⑥に同じ ⑦研究計画書及び履修計画書 ※ 400 字以上，A 4 縦長・横書き （上部に志望専攻，志望専修名及び志願者氏名を記入してください） ⑧英語能力を証明する書類（機械工学専攻，化学システム工学専攻及び建設工学専攻のみ） TOEIC L&R[注2]またはTOEFL[注3]のスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ⑨資格取得者は，その証明書の写しを提出してください。

注1：2頁の出願資格③・④・⑥・⑧に該当する者で，上記書類のうち提出不可能なものがある場合は，事前に大学院事務課へ相談してください。

注2：TOEIC L&Rのスコア証明書は，TOEIC L&R公開テスト公式認定書とします。（福岡大学において実施されたTOEIC L&R（IP）テストの結果は有効と認めます）

注3：TOEFLのスコア証明書は，TOEFLの受験者成績表とします。（福岡大学において実施されたTOEFL（ITP）テストの結果は有効と認めます）

注4：出願資格によっては，上記以外の書類の提出をお願いすることがあります。

注5：改姓された者（証明書使用の姓と現在の姓が異なる方）は，戸籍抄本等，改姓を証明する書類（1年以内に発行されたもの）を添付してください。

目次に戻る

(2) 入学検定料の納入方法

入学検定料	32,000円

入学検定料は，最寄の金融機関（郵便局・ゆうちょ銀行を除く）から本学所定の「振込用紙」に記載された指定金融機関宛に振り込んでください。

なお，振込みの際に受取った「入学検定料領収書（大学提出）」を，指定の入学検定料領収書貼付台紙に貼って，他の出願書類とともに提出してください。

（注）自動振込機（ATM）から振込みを行う場合は，氏名の前に「振込用紙」の「整理番号」を必ずご入力ください。振込みを証明できるもの（利用明細票の写し）を指定の入学検定料領収書貼付台紙に貼って提出してください。

（注）インターネットバンキングによる振込みは受付できません。

(3) 出願上の注意

① 該当する出願資格に記載された条件の内容を必ず確認してください。

② 出願書類に不備がある場合は受理しないことがあります。記入漏れがないように注意してください。

③ 志願票及び副票・受験票の「志望専修部門」欄は，各専攻の入学生を募集する専修部門（9～18頁参照）の中から1部門を選択し，その名称を記入してください。
「指導教員」欄には，志望する専修部門の指導教員1名の氏名を記入してください。
※機械工学専攻および資源循環・環境工学専攻の志願者は，「第2志望」欄も記入してください。

④ 電子情報工学専攻及び建設工学専攻の一般入学試験志願者は，志願票及び副票・受験票の「受験科目」欄に，選択受験する専門科目の名称を記入してください。（5～7頁「8　試験科目・試験時間」参照）
なお，受験科目の選択については，志望する指導教員の指導を受けてください。

⑤ 秋季入学試験で入学定員に達した専修部門は春季入学試験を実施しない場合がありますので，春季志願者は事前に大学院事務課へ確認してください。

⑥ 一度払い込まれた入学検定料及び提出した書類（論文含む）の返還請求には応じません。

⑦ 健康の状況について
疾病・障がい等により，受験時および修学上配慮を必要とされる方は，出願前のできるだけ早い時期に大学院事務課へ相談ください。（症状についての具体的内容が記載された診断書を添えてください。障害者手帳をお持ちの方は，そのコピーも添えてください。）

【出願資格審査について】

◆出願資格の⑨，⑩の出願条件

資格⑨：日本の大学から日本の大学院へ飛び級入学した者
資格⑩：短期大学，高等専門学校，専修学校，各種学校の卒業生，その他の教育施設の修了者であること。

◇書類提出期間：秋季志願者 令和6年7月16日（火）～ 7月18日（木）
春季志願者 令和6年12月9日（月）～12月11日（水）
午前10時～午後4時（正午～午後1時を除きます）

◇提 出 書 類：① 志願票（本学所定用紙）
※「志願票」裏面の履歴書の記入について
・職歴及び実務経験を詳しく記入してください。
・業績（研究論文，学会発表，特許　等）がある者は記入し，その現物の写しも提出してください。
・専門性に係る資格を保有している者は記入し，その証明書の写しも提出してください。

② 最終学歴の証明書
〈出願資格⑨〉
・出身大学の成績証明書
・在籍期間及び退学年月日が記載された出身大学の証明書
・入学年月日が記載された出身大学院の証明書
〈出願資格⑩〉
・最終卒業（修了）学校の卒業証明書及び成績証明書

③ 志望動機と目的　※400字以上，A4縦長・横書き
（上部に志望専攻・志望専修名及び志願者氏名を記入してください）

④ 英語能力を証明する書類
・機械工学専攻（一般入試志願者（とび級含）のみ）
TOEIC L&R，TOEFL（PBT，CBT，iBT），英検，IELTSのスコア証明書のいずれか。
（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&Rテストのオンライン受験は認めません））
・電気工学専攻（一般入試志願者のみ）
TOEIC L&Rのスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと）

目次に戻る

・電子情報工学専攻（一般入試志願者（とび級含）のみ）
TOEIC L&R, TOEFL（PBT, CBT, iBT）, IELTS のスコア証明書のいずれか。（**提出必須** コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません））ただし TOEIC L&R は 300 点以上，TOEFL PBT は 403 点以上，TOEFL CBT は 97 点以上，TOEFL iBT は 32 点以上，IELTS は 3.5 点以上であること。
・化学システム工学専攻（一般入試志願者（とび級含）のみ）
TOEIC L&R，TOEFL または IELTS のスコア証明書（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません））
・建設工学専攻
TOEIC L&R または TOEFL のスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと）
※ ④で提出できるスコア証明書は，TOEIC L&R は TOEIC L&R 公開テスト公式認定書，TOEFL は TOEFL の受験者成績表，IELTS は IELTS の成績証明書とします。（福岡大学において実施された TOEIC L&R（IP）テストおよび TOEFL（ITP）テストの結果は有効と認めます）

◇審査結果通知：審査の結果は本人宛てに通知します。なお，受験が認められた者は，指定の期日までに入学検定料を納入し，下記の書類を提出してください。入学検定料の納入が確認された後，受験票を送付します。
① 副票・受験票（本学所定用紙）
② 入学検定料領収書（大学提出）※本学所定の台紙に貼り付けられていること
③ 住所シート（本学所定用紙）

6 受　験　票

※出願手続完了者には，「受験票」を送付します。
※試験日の５日前までに到着しない場合は大学院事務課へ連絡してください。
※「受験票」は入学手続完了まで保管してください。

7 試験場・試験会場

福岡市城南区七隈八丁目 19 番１号　　福岡大学内
※試験会場は，試験日当日の午前８時 30 分に中央図書館西側１階入口（大学院エントランス）に掲示します。
※受験者は，「受験上の注意」開始時刻（5～7 頁参照）までに試験会場に入室してください。

8 試験科目・試験時間

《一　般　入　学　試　験》

■機械工学専攻

時　間	試　験　科　目
9：00～	受験上の注意
9：15～12：15	◆　専門科目 材料力学，流体工学，熱工学，機械設計・工作法，機械力学・制御 （合計５科目）　※電卓（関数電卓を含む）を携帯してください。
	※英語の筆記試験は実施しません。TOEIC L&R（IP テストは含まない），TOEFL（iBT，CBT，PBT），英検または IELTS のスコアで英語能力を評価します。
15：30～	◆　面　　接

■電気工学専攻

時　間	試　験　科　目
9：00～	受験上の注意
9：15～12：15	◆　専門科目（合計４科目）【解答時に選択】 ＊電気磁気学，電気回路（２科目必須） ＊高電圧工学，電気機器，発変電工学，送配電工学，パワーエレクトロニクス，通信工学，半導体工学，電子回路，情報処理，制御工学から２科目を選択する。 ※電卓（関数電卓を含む）を携帯してください。
13：00～14：30	◆　英　　語
15：30～	◆　面　　接

目次に戻る

■電子情報工学専攻

時　間	試　験　科　目
9：00～	受験上の注意
9：15～12：15	◆　専門科目【出願時に選択】 次のＡ，Ｂ，Ｃ群より各１科目を選択する。（合計３科目） Ａ群　電子通信系数学，情報系数学 Ｂ群　電気磁気学，電気電子回路，計算機ハードウェア，ソフトウェア基礎 Ｃ群　電子・通信工学，情報システム ※電卓（関数電卓を含む）を携帯してください。
	《Ａ群の科目について》 電子通信系数学：微分・偏微分方程式，ベクトル，フーリエ解析などの手法を用いて電子通信系事象解析。 情 報 系 数 学：集合・写像・関係・確率・統計・論理と証明など。
	※英語の筆記試験は実施しません。TOEIC L&R R，TOEFL または IELTS のスコアで英語能力を評価します。ただしTOEIC L&Rは300点以上，TOEFL PBTは403点以上，TOEFL CBTは97点以上，TOEFL iBTは32点以上，IELTSは3.5点以上であること。
15：30～	◆　面　　接

■化学システム工学専攻

時　間	試　験　科　目
9：00～	受験上の注意
9：15～12：15	◆　専門科目【解答時に選択】 「物理化学」「化学統計熱力学」「無機化学」「工業化学・高分子」「反応工学Ⅰ」「反応工学Ⅱ」「流体工学」「輸送現象・分離工学」「粉粒体工学・触媒プロセス工学」「プロセスシステム工学」の10科目から任意に５科目を選択する。 ※電卓（関数電卓を含む）を携帯してください。
	《専門英語について》 専門科目中に記述された専門英語に関する設問の得点は，TOEIC L&R，TOEFLまたはIELTSのスコアとあわせて英語能力の評価に用いられ，専門科目の評価には用いられません。
	※英語の筆記試験は実施しません。TOEIC L&R，TOEFL または IELTS のスコアに専門科目中の専門英語に関する設問の得点を加えて英語能力を評価します。
15：30～	◆　面　　接

■建設工学専攻

時　間	試　験　科　目
9：00～	受験上の注意
9：15～12：15	◆　専門科目【出願時に選択】 志望する専修により必須・選択科目が異なる。 ※電卓（関数電卓を含む）を携帯してください。 ※社会デザイン工学専修の「3．地盤工学」を選択する方は，分度器，定規，コンパスを携帯してください。 ＜社会デザイン工学専修＞ 次の1.～6.から3科目を選択する （留学生は7.は必須。1.～6.から１科目を選択する） 1．構造力学，2．水理学，3．地盤工学，4．コンクリート・材料工学， 5．水環境工学，6．都市および交通計画・景観工学， 7．社会デザイン工学総合 ＜建築学専修＞ 次の1.は必須。2.～6.から２科目を選択する。（合計３科目） 1．建築総合（建築学一般） 2．建築構造（構造力学，ＲＣ構造，鉄骨構造，基礎構造） 3．建築材料・構法（コンクリート工学，建築構法） 4．建築計画（住宅計画，建築計画） 5．都市計画・歴史意匠（都市計画，建築史，意匠論） 6．建築環境・設備（建築環境学，建築設備）
13：00～14：30	◆　英　　語
15：30～	◆　面　　接

■資源循環・環境工学専攻

時　間	試　験　科　目
9：00～	受験上の注意
9：15～12：15	◆　専門科目 資源循環・環境工学基礎及び志望専修科目に関する専門科目（合計２科目）
13：00～14：30	◆　英　　語
15：30～	◆　面　　接

《社　会　人　入　学　試　験》

■全専攻共通

時　間	試　験　科　目
12：45～	受験上の注意
13：00～14：00	◆　小　論　文
15：30～	◆　面　　接 小論文及び研究計画書・履修計画書による口頭試問を行う。

9 合 格 発 表

① 合格発表日時

秋季入学試験　合格発表	令和６年９月30日（月）午前10時
春季入学試験　合格発表	令和７年３月10日（月）午前10時

② 合格者の受験番号を掲示するとともに，合格者へ入学手続書類を郵送（簡易書留）します。不合格者への通知はいたしません。

◆ 掲示場所：大学院事務課前

③ 福岡大学公式ホームページ内の「大学院個別サイト」（https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/）に合格者の受験番号を掲載いたします。

④ 合否に関する電話による問合せには一切応じません。

⑤ 出願書類及び入学手続書類等に虚偽の記載があった場合は，入学許可を取り消すことがあります。

10 入 学 手 続

※ 入学手続等の詳細は，合格通知とともにお知らせします。

※ 入学申込金・授業料その他諸納入金の納入については，「(1)　入学に要する経費等」の学費等納入金表を参照してください。

(1) 入学に要する経費等

学 費 等 納 入 金 表　　（単位：円）

項目 ＼ 区分			本学学部卒業	本学大学院修了	他大学卒業・他大学院修了	備考
入学時納入金	入学申込金（入学金）		120,000	0	120,000	入学年度のみ納入
	第一期分学費等納入金	第一期分授業料	315,000	315,000	315,000	毎年度納入
		第一期分教育充実費	70,000	70,000	70,000	
		委託徴収金	3,000	3,000	18,100	
		（小計）	388,000	388,000	403,100	
	計		508,000	388,000	523,100	
第二期払込分	第二期分学費等納入金	第二期分授業料	315,000	315,000	315,000	毎年度納入
		第二期分教育充実費	70,000	70,000	70,000	
	計		385,000	385,000	385,000	
初年度納入金　合計			893,000	773,000	908,100	

◆上記合計金額のうち，「入学申込金」及び「第一期分学費等納入金」として，下記の金額を所定の期日までに納入してください。（納入期限当日の収納日付印まで有効）

費目	本学学部卒業	本学大学院修了	他大学卒業・他大学院修了
入学申込金	120,000	0	120,000
	◇**納入期限**：秋季入学試験合格者　令和６年10月15日（火） 春季入学試験合格者　令和７年３月18日（火）		
第一期分学費等納入金	388,000	388,000	403,100
	◇**納入期限**：秋季入学試験合格者・春季入学試験合格者ともに 令和７年３月24日（月）		

※納入期限後はいかなる理由があっても受け付けできません。
※所定の期限までにこれらの手続きを完了してください。
※二年次以降の学費等納入金のうち，「委託徴収金」の金額には多少の変動が生じることがあります。

(2) 入学辞退について

① 合格発表後に入学を辞退する場合は『入学辞退届』を提出してください。

② 入学手続き終了後に入学を辞退する場合は『入学辞退届』を提出した方に限り，入学申込金（入学金）を除く第一期分学費等納入金を返還いたします。

目次に戻る

11　各専攻の学生募集専修部門・指導教員及び授業科目・履修方法等の概要

●機械工学専攻

材料力学，流体工学，熱工学，機械設計・工作法および機械力学・制御の５専修部門からなり，専修部門ごとに専任教員が教育・研究にあたっています。本専攻では機械工学の幅広い分野にわたる基礎知識を修得させるとともに，最新の科学・技術に密着した研究を通じて総合的な問題解決能力を付けさせ，さまざまな工学的問題や社会的課題を解決できる高度な機械技術者・研究者の育成に取り組んでいます。

令和７年度４月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

専修部門	指導教員	研究内容
材料力学	教授　Ph.D.　柳瀬　圭児	(1)材料力学に関する実験的および解析的研究 (2)機械学習を用いた材料開発に関する研究
流体工学	（担当者未定）	
熱工学	教授　工学博士　高尾　幸来	(1)低GWP冷媒を用いる冷凍空調機器内の伝熱流動特性およびオイルの影響に関する研究 (2)対向ピストンエンジンの高効率化に関する研究
機械設計・工作法	教授　博士(工学)　森山　茂章	外科領域における医療支援技術の開発
	教授　博士(工学)　山辺純一郎	次世代エネルギー機械要素・部品の信頼性評価
機械力学・制御	教授　博士(工学)　岩村　誠人	(1)マルチボディダイナミクスとその応用 (2)ロボットシステムの軌道計画と制御

授業科目，単位，担当者及び履修方法（令和６年度現在）

主要科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
材料力学専修	材料力学特別研究	8	教授　工学博士　遠藤　正浩 教授　Ph.D.　柳瀬　圭児
	材料力学特論Ⅰ	2	教授　工学博士　遠藤　正浩
	材料力学特論Ⅱ	2	教授　Ph.D.　柳瀬　圭児
流体工学専修	流体工学特別研究	8	（担当者未定）
	流体力学特論	2	准教授　博士(工学)　安東　洋一
	流体機械特論	2	（担当者未定）
熱工学専修	熱工学特別研究	8	教授　工学博士　高尾　幸来
	熱工学特論	2	
	熱機関特論	2	准教授　博士(工学)　宮田　一司
機械設計・工作法専修	機械設計・工作法特別研究	8	教授　博士(工学)　森山　茂章 教授　博士(工学)　山辺純一郎
	機械設計特論	2	教授　博士(工学)　森山　茂章
	工作法特論	2	教授　博士(工学)　山辺純一郎
機械力学・制御専修	機械力学・制御特別研究	8	教授　博士(工学)　岩村　誠人
	機械力学特論	2	
	機械制御特論	2	教授　博士(工学)　岩村　誠人 准教授　博士(工学)　林　長軍
特修科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
非専修	破壊力学	2	（担当者未定）
	応用数学特論Ⅰ	2	教授　博士(理学)　宮原　慎
	応用数学特論Ⅱ	2	（担当者未定）
	応用物理学特論Ⅰ	2	准教授　博士(理学)　政田　洋平
	応用物理学特論Ⅱ	2	
	解析力学	2	教授　博士(理学)　端山　和大
	応用力学特別講義	2	（担当者未定）
	エネルギー工学特別講義	2	（担当者未定）
	設計工学特別講義	2	（担当者未定）

1　学生の標準修業年限は２年とし，所定の授業科目について，合計30単位以上を修得するものとする。
2　主要科目のうちから１専修部門（特別研究・特論）を選定し，これをその学生の専修科目とする。
3　専修科目の特別研究担当者を指導教員とし，授業科目の選択，学位論文の作成，その他研究一般について，その指導を受けるものとする。
4　第１項の30単位は，専修部門の全科目のほか，履修する他の専修部門の科目（特別研究を除く）及び履修する特修科目の合計単位とする。指導教員が必要と認めた場合は，他の専攻及び研究科の授業科目を履修し，これを特修科目の単位にあてることができる。
5　修士の学位論文は，専修科目について提出するものとする。

目次に戻る

●電気工学専攻

電気基礎，パワーエレクトロニクス，電力工学，応用電気工学の４専修で構成されています。これらには環境，情報通信，機能材料，制御システム，エネルギー変換，高電圧絶縁，レーザ応用などの分野を含みます。それぞれの分野における技術の進歩は目覚ましいものがありますが，本専攻では各専修分野間の連携を図りながら，社会の要請に応えられる人材の育成を目指しています。

令和７年度４月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

専修部門	指導教員	研究内容
電気基礎	教授　博士(工学)　江田　孝治	画像の周波数解析とその応用技術に関する研究
	教授　博士(工学)　西田　貴司	電気電子機能材料の創成，物性解明とデバイス応用の研究
	教授　博士(工学)　孟　志奇	電磁波の応用技術と数値解析手法に関する研究
パワーエレクトロニクス	教授　工学博士　根葉　保彦	電力変換器の開発と応用システムの研究
電力工学	教授　博士(工学)　篠原　正典	プラズマー表面相互作用，プラズマを用いたデバイス創製の研究
応用電気工学	教授　博士(工学)　小浜　輝彦	電子機器用電源装置の高性能化及びその応用に関する研究
	教授　工学博士　住吉谷　覚	レーザ光による電界計測と空間での電荷担体の挙動解析

授業科目，単位，担当者及び履修方法（令和６年度現在）

主要科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
電気基礎専修	電気基礎特別研究	6	教授　博士(工学)　江田　孝治 教授　博士(工学)　西田　貴司 教授　博士(工学)　孟　志奇
	電気基礎特別実験	4	教授　博士(工学)　江田　孝治 教授　博士(工学)　西田　貴司 教授　博士(工学)　孟　志奇 助教　博士(工学)　圓谷　友紀
	電気基礎特論Ⅰ	4	教授　博士(工学)　江田　孝治 教授　博士(工学)　西田　貴司 教授　博士(工学)　孟　志奇
	電気基礎特論Ⅱ	4	
パワーエレクトロニクス専修	パワーエレクトロニクス特別研究	6	教授　工学博士　根葉　保彦
	パワーエレクトロニクス特別実験	4	教授　工学博士　根葉　保彦 准教授　博士(工学)　辻　聡史
	パワーエレクトロニクス特論Ⅰ	4	
	パワーエレクトロニクス特論Ⅱ	4	
電力工学専修	電力工学特別研究	6	教授　博士(工学)　篠原　正典 准教授　博士(工学)　高村　紀充
	電力工学特別実験	4	
	電力工学特論Ⅰ	4	
	電力工学特論Ⅱ	4	
応用電気工学専修	応用電気工学特別研究	6	教授　博士(工学)　小浜　輝彦 教授　工学博士　住吉谷　覚
	応用電気工学特別実験	4	教授　博士(工学)　小浜　輝彦 教授　工学博士　住吉谷　覚
	応用電気工学特論Ⅰ	4	
	応用電気工学特論Ⅱ	4	准教授　博士(工学)　松岡　毅
特修科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
非専修	応用数学特論	2	教授　博士(理学)　田中　尚人
	応用物理学特論	2	教授　博士(工学)　西田　貴司
	電磁解析特論	2	教授　博士(工学)　孟　志奇
	電気回路特論	2	教授　工学博士　根葉　保彦
	放電プラズマ特論	2	教授　博士(工学)　篠原　正典
	電気絶縁特論	2	准教授　博士(工学)　高村　紀充
	自動制御特論	2	准教授　博士(工学)　松岡　毅
	環境電気特論	2	教授　工学博士　住吉谷　覚
	パルス・ディジタル応用特論	2	教授　博士(工学)　小浜　輝彦
	電気機器応用特論	2	准教授　博士(工学)　辻　聡史
	信号解析特論	2	教授　博士(工学)　江田　孝治
	電気エネルギーシステム特論Ⅰ	2	教授　博士(工学)　江田　孝治 他　専任教員全員
	電気エネルギーシステム特論Ⅱ	2	

1　学生の標準修業年限は２年とし，所定の授業科目について，合計30単位以上を修得するものとする。
2　主要科目のうちから一つの専修部門（特別研究・特別実験・特論）を選定し，これをその学生の専修科目とする。
3　専修科目の特別研究担当者を指導教員とし，授業科目の選択，学位論文の作成，その他研究一般について，その指導を受けるものとする。
4　第１項の30単位は，専修科目18単位及び特修科目12単位以上とし，指導教員が必要と認めた場合は，他の専修又は専攻及び研究科の授業科目を履修し，これを特修科目の単位にあてることができる。
5　修士の学位論文は，専修科目について提出するものとする。

目次に戻る

●電子情報工学専攻

集積回路，通信システム，オプトエレクトロニクス，計算機システム，情報アーキテクチャー，知能工学，情報システム開発工学，メディア工学の８分野で構成され，各分野の専任教員が半導体工学，電子回路工学，ディジタル通信工学，オプトエレクトロニクス，計算機工学，ロボティクス，自然言語処理，音声・画像処理，システム・ソフトウェア工学の教育・研究を行っています。本専攻では，エレクトロニクス，通信及び情報を中心に進められている技術革新を担っていくことができる高度な知識と研究能力を有する人材の育成を目指しています。

令和７年度４月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

専修部門	指導教員			研究内容
集積回路	教授	博士(工学)	末次　正	高周波スイッチング増幅器および半導体実装に関する研究
	教授	博士(理学)	鈴木　孝将	電子材料の物性に関するナノエレクトロニクス分野の研究
	教授	博士(工学)	名倉　徹	半導体集積回路に関する研究
通信システム	教授	博士(情報工学)	太郎丸　眞	ディジタル無線通信方式とソフトウエア無線機の研究
オプトエレクトロニクス	教授	博士(工学)	文仙　正俊	光記録および光応用計測に関する研究
計算機システム	教授	博士(工学)	佐藤　寿倫	高性能コンピュータシステムの省エネ・安全安心に関する研究
	教授	Ph.D.	モシニャガ・ワシリー	計算機システムおよびコグニティブコンピューティングの研究
情報アーキテクチャ	准教授	博士(情報処理工学)	小野晋太郎	画像センシングおよびスマートモビリティに関する研究
知能工学	(担当者未定)			
情報システム開発工学	教授	博士(工学)	中西　恒夫	組込みシステムとその開発方法論に関する研究
メディア工学	教授	博士(工学)	髙橋　伸弥	音声・画像他，大規模データ処理技術に関する研究
	教授	博士(工学)	鶴田　直之	人工知能および複合現実，仮想現実の研究

授業科目，単位，担当者及び履修方法（令和６年度現在）

主要科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
集積回路専修	集積回路特別研究Ⅰ	4	教授　博士（工学）　末次　正 教授　博士（理学）　鈴木　孝将 教授　博士（工学）　名倉　徹
	集積回路特別研究Ⅱ	6	
	半導体工学特論	2	教授　博士（工学）　名倉　徹
	集積回路工学特論	2	
	電子回路設計特論	2	教授　博士(工学)　末次　正
	固体電子回路特論	2	
	応用物理学特論	2	教授　博士(理学)　鈴木　孝将
通信システム専修	通信システム特別研究Ⅰ	4	教授　博士(情報工学)　太郎丸　眞
	通信システム特別研究Ⅱ	6	
	移動通信システム特論	2	教授　博士(情報工学)　太郎丸　眞
	通信工学特論	2	(担当者未定)
オプトエレクトロニクス専修	オプトエレクトロニクス特別研究Ⅰ	4	教授　博士(工学)　文仙　正俊
	オプトエレクトロニクス特別研究Ⅱ	6	
	光エレクトロニクス特論Ⅰ	2	
	光エレクトロニクス特論Ⅱ	2	
計算機システム専修	計算機システム特別研究Ⅰ	4	教授　博士(工学)　佐藤　寿倫 教授　Ph.D.　モシニャガ・ワシリー
	計算機システム特別研究Ⅱ	6	
	計算機工学特論Ⅰ	2	教授　Ph.D.　モシニャガ・ワシリー
	計算機工学特論Ⅱ	2	教授　博士(工学)　佐藤　寿倫
情報アーキテクチャ専修	情報アーキテクチャ特別研究Ⅰ	4	准教授　博士(情報処理工学)　小野晋太郎
	情報アーキテクチャ特別研究Ⅱ	6	
	ネットワークシステム特論	2	講師　博士(工学)　中村　遼
	ロボティクス特論Ⅰ	2	准教授　博士(情報処理工学)　小野晋太郎
	ロボティクス特論Ⅱ	2	

主　要　科　目			
部　門	授業科目	単位数	担当者
知能工学専修	知能工学特別研究Ⅰ	4	教授　工学博士　吉村　賢治
	知能工学特別研究Ⅱ	6	
	言語工学特論	2	
	情報論理学特論	2	
情報システム開発工学専修	情報システム開発工学特別研究Ⅰ	4	教授　博士(工学)　中西　恒夫
	情報システム開発工学特別研究Ⅱ	6	
	システム・ソフトウェア工学特論	2	
	情報ネットワーク特論	2	教授　博士(情報工学)　奥村　勝
	情報セキュリティ特論	2	准教授　博士(工学)　中國　真教
メディア工学専修	メディア工学特別研究Ⅰ	4	教授　博士(工学)　髙橋　伸弥
	メディア工学特別研究Ⅱ	6	教授　博士(工学)　鶴田　直之
	音声情報処理特論	2	教授　博士(工学)　髙橋　伸弥
	画像情報処理特論	2	教授　博士(工学)　鶴田　直之

共　通　科　目		
授業科目	単位数	担当者
応用数学特論Ⅰ	2	教授　博士(理学)　田中　尚人
応用数学特論Ⅱ	2	
電子情報工学特別講義Ⅰ	2	(担当者未定)
電子情報工学特別講義Ⅱ	2	(担当者未定)
技術マネージメント特論	2	非常勤講師　亀井　重喜 非常勤講師　松尾　久人 非常勤講師　三宅　賢治
システム開発特別演習	2	教授　博士(工学)　中西　恒夫 履修者指導教員 他
ITプロジェクト管理特論	2	(担当者未定)
システム開発特別実習	2	教授　博士(工学)　鶴田　直之 履修者指導教員 他
プロジェクト型開発特別演習・実習	4	教授　工学博士　吉村　賢治 履修者指導教員 他

1　学生の標準修業年限は2年とし，所定の授業科目について，合計30単位以上を修得しなければならない。
2　学生は，一つの専修部門を選択し，そのうちの一つの特別研究（Ⅰ・Ⅱ）を選ぶものとする。
3　前項の特別研究の担当者を指導教員とし，授業科目の選択，学位論文の作成，その他研究一般について指導教員の指導を受けるものとする。
4　第1項の30単位は，次の区分によって修得しなければならない。
⑴選択した専修部門の特別研究Ⅰ（4単位）及び特別研究Ⅱ（6単位）は，必修とする。
⑵授業科目の中から20単位以上を履修する。
⑶指導教員が必要と認めた場合は，他の専攻又は研究科の授業科目を履修し，これを前号の単位にあてることができる。

●化学システム工学専攻

化学システム工学専攻は，プロセスシステム工学，複合材料，界面プロセス工学，移動現象工学，化工流体工学，応用触媒化学，反応工学，化学安全工学，工業無機化学を専門とする専任教員で構成されています。本専攻では，化学工学・分子工学によって技術開発が可能となる，プロセスデータ解析，ナノカプセル技術，環境汚染粒子の細胞毒性，高性能化学装置，流動計測・流体解析，触媒表面解析，バイオ燃料，安全性評価技術，カーボンリサイクル技術など，先端的なテーマを取り上げ，広い視野を持つ高度な技術者を育成することを目指します。

令和７年度４月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

専修部門	指導教員	研究内容
プロセスシステム工学	教授　博士(工学)　野田　賢	化学プラントの監視制御システムに関する研究
複合材料	教授　工学博士　三島　健司	高圧力技術を用いた機能性材料創製に関する研究
界面プロセス工学	教授　博士(工学)　新戸　浩幸	細胞とバイオマテリアルの界面現象
移動現象工学	教授　博士(工学)　松隈　洋介	輸送現象論に基づく化学装置の高性能化に関する研究
応用触媒化学	教授　博士(理学)　久保田　純	エネルギー関連触媒とその表面機能に関する研究
化工流体工学	教授　博士(工学)　鈴川　一己	実験計測及びCFDによる撹拌槽等の化学装置の流動研究
反応工学	教授　博士(農学)　重松　幹二	バイオマテリアルの化学変換と安全工学に関する研究
化学安全工学	教授　博士(環境学)　加藤　勝美	化学災害の防止に向けた安全工学的研究
工業化学・高分子	准教授　博士(工学)　瀬戸　弘一	生体模倣高分子の合成とバイオ分離材料への応用に関する研究
工業無機化学	准教授　博士(工学)　加藤　貴史	機能性無機材料を用いた環境調和型システムの開発に関する研究

授業科目，単位，担当者及び履修方法（令和６年度現在）

主要科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
プロセスシステム工学専修	プロセスシステム工学特別研究	6	教授　博士(工学)　野田　賢
	プロセスシステム工学特別実験	4	教授　博士(工学)　野田　賢 助教　博士(工学)　吉原　直記
	プロセスシステム工学特論	4	教授　博士(工学)　野田　賢
複合材料専修	複合材料特別研究	6	教授　工学博士　三島　健司
	複合材料特別実験	4	
	複合材料特論	4	
界面プロセス工学専修	界面プロセス工学特別研究	6	教授　博士(工学)　新戸　浩幸
	界面プロセス工学特別実験	4	
	物質移動工学特論	4	
移動現象工学専修	移動現象工学特別研究	6	教授　博士(工学)　松隈　洋介
	移動現象工学特別実験	4	
	移動現象工学特論	4	
応用触媒化学専修	応用触媒化学特別研究	6	教授　博士(理学)　久保田　純
	応用触媒化学特別実験	4	
	応用触媒化学特論	4	
化工流体工学専修	化工流体工学特別研究	6	教授　博士(工学)　鈴川　一己
	化工流体工学特別実験	4	
	化工流体工学特論	4	

反応工学専修	反応工学特別研究	6	教授　博士(農学)　重松　幹二
	反応工学特別実験	4	
	反応工学特論	4	
化学安全工学専修	化学安全工学特別研究	6	教授　博士(環境学)　加藤　勝美
	化学安全工学特別実験	4	
	化学安全工学特論	4	
工業化学・高分子専修	工業化学・高分子特別研究	6	准教授　博士(工学)　瀬戸　弘一
	工業化学・高分子特別実験	4	
	工業化学・高分子特論	4	
工業無機化学専修	工業無機化学特別研究	6	准教授　博士(工学)　加藤　貴史
	工業無機化学特別実験	4	
	工業無機化学特論	4	

特修科目

部門	授業科目	単位数	担当者
非専修	化学プロセス特論	2	非常勤講師　工学博士　寺嶋　正明
	プロセス設計特論	2	教授　工学博士　三島　健司
	プロセス制御特論	2	教授　博士(工学)　野田　賢
	バイオマス変換工学特論	2	教授　博士(農学)　重松　幹二
	エネルギー物質化学特論	2	教授　博士(環境学)　加藤　勝美
	高分子化学特論	2	准教授　博士(工学)　瀬戸　弘一
	輸送現象特論	2	教授　博士(工学)　松隈　洋介
	界面プロセス工学特論	2	教授　博士(工学)　新戸　浩幸
	無機機能材料特論	2	准教授　博士(工学)　加藤　貴史
	触媒工学特論	2	教授　博士(理学)　久保田　純
	流体工学特論	2	教授　博士(工学)　鈴川　一己
	伝熱工学特論	2	非常勤講師　工学博士　深井　潤
	環境工学特論	2	教授　博士(工学)　田中　綾子
	環境物理学特論	2	(担当者未定)
	応用数学特論Ⅰ	2	教授　博士(理学)　宮原　慎
	応用数学特論Ⅱ	2	(担当者未定)
	応用物理学特論Ⅰ	2	准教授　博士(理学)　政田　洋平
	応用物理学特論Ⅱ	2	
	化学工学特論Ⅰ	1	非常勤講師　博士(医工学)　米田　健治
	化学工学特論Ⅱ	1	非常勤講師　工学博士　寺嶋　正明
	化学工学特論Ⅲ	1	非常勤講師　工学博士　鹿毛　浩之
			非常勤講師　博士(工学)　中野　光一
	化学工学特論Ⅳ	1	非常勤講師　農学博士　酒井　謙二
	英語論作文スキル特論Ⅰ	2	非常勤講師　博士(情報工学)　シャテラン・ロバート
	英語論作文スキル特論Ⅱ	2	

1　学生の標準修業年限は2年とし，所定の授業科目について，合計30単位以上を修得するものとする。
2　主要科目のうちから一つの専修部門（特別研究・特別実験・特論）を選定し，これをその学生の専修科目とする。
3　専修科目の特別研究担当者を指導教員とし，授業科目の選択，学位論文の作成，その他研究一般について，その指導を受けるものとする。
4　第1項の30単位は，専修科目14単位及び特修科目16単位以上とし，指導教員が必要と認めた場合は，他の専修，専攻又は他の研究科の授業科目を履修し，これを特修科目の単位にあてることができる。
5　修士の学位論文は，専修科目について提出するものとする。

●建設工学専攻

住む，働く，憩う，動くなど，社会の多様な活動を支える空間や施設の整備を担う建設技術は，安心・安全の確保，環境との調和が不可欠であり，激しい自然災害に見舞われる現代社会において，より一層の高度化が求められています。本専攻は，そうした難問に積極的に取り組むことのできる高度な研究者，技術者，デザイナーの育成を目指しており，建築学と社会デザイン工学（土木工学）を専門とする教員が，幅広い分野の研究と教育を行っています。なお，一級建築士試験の実務経験要件を満たす科目も開講しています。

令和７年度４月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

専修部門	指導教員	研究内容
建築学	教授 博士(工学) 穴井 謙	都市・建築空間における音・光環境の予測評価手法と対策技術に関する研究
	教授 博士(人間環境学) 池添 昌幸	住宅および建築のストックマネジメントに関する研究
	教授 博士(工学) 堺 純一	建築構造物の弾塑性挙動と構造性能評価法に関する研究
	教授 工学博士 髙山 峯夫	免震・制震技術を使った応答制御構造に関する研究
	教授 博士(工学) 太記 祐一	歴史的な都市空間とそれを構成する建築物に関する研究（東地中海沿岸を中心に）
	教授 博士(工学) 趙 翔	人間行動と空間の関係に関する研究と建築空間のデザイン
	准教授 博士(工学) 田中 照久	建築構造物の耐震技術と性能設計法に関する研究
	准教授 博士(工学) 塚越 雅幸	建築部材の耐久性評価および予測と補修・補強に関する研究
	准教授 博士(工学) 宮崎 慎也	持続可能な都市形態と社会システムに関する研究
社会デザイン工学	教授 博士(工学) 佐藤 研一	液状化，軟弱地盤，地盤環境問題への対策，舗装技術に関する研究
	教授 博士(工学) 柴田 久	景観や公共施設のデザインに関する研究
	教授 博士(工学) 辰巳 浩	都市交通と地域活性化のためのまちづくりに関する研究
	教授 博士(工学) 村上 哲	豪雨・地震による地盤災害の予測手法の高度化と防止・軽減技術に関する研究
	教授 博士(工学) 渡辺 浩	木質資源の外構材への有効利用と木橋への適用性に関する研究
	教授 博士(工学) 渡辺 亮一	都市内水循環および生態系再生に関する研究
	准教授 博士(工学) 橋本 彰博	流域・沿岸域における防災・減災および環境保全に関する研究
	准教授 博士(工学) 櫨原 弘貴	コンクリート構造物の高耐久化と維持管理技術に関する研究

授業科目，単位，担当者及び履修方法（令和６年度現在）

主要科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
建築学専修	建築学特別研究	6	教授 博士(工学) 穴井 謙
			教授 博士(人間環境学) 池添 昌幸
			教授 博士(工学) 堺 純一
			教授 工学博士 髙山 峯夫
			教授 博士(工学) 太記 祐一
			教授 博士(工学) 趙 翔
			教授 博士(工学) 吉澤 幹夫
			准教授 博士(工学) 田中 照久
			准教授 博士(工学) 塚越 雅幸
			准教授 博士(工学) 宮崎 慎也
	建築学特別実験・実習	4	教授 博士(工学) 穴井 謙
			教授 博士(人間環境学) 池添 昌幸
			助教 博士(工学) 野口 雄太
			教授 博士(工学) 堺 純一
			教授 工学博士 髙山 峯夫
			教授 博士(工学) 太記 祐一
			助教 博士(工学) 四ケ所高志
			教授 博士(工学) 趙 翔
			助教 博士(芸術工学) 松永 一郎
			教授 博士(工学) 吉澤 幹夫
			准教授 博士(工学) 田中 照久
			准教授 博士(工学) 塚越 雅幸
			准教授 博士(工学) 宮崎 慎也
			助教 博士(工学) 野田 りさ
社会デザイン工学専修	社会デザイン工学特別研究	6	教授 博士(工学) 佐藤 研一
			教授 博士(工学) 柴田 久
			教授 博士(工学) 辰巳 浩
			教授 博士(工学) 村上 哲
			教授 博士(工学) 渡辺 浩
			教授 博士(工学) 渡辺 亮一
			准教授 博士(工学) 橋本 彰博
			准教授 博士(工学) 櫨原 弘貴
	社会デザイン工学特別実験・実習	4	教授 博士(工学) 佐藤 研一
			教授 博士(工学) 柴田 久
			教授 博士(工学) 辰巳 浩
			教授 博士(工学) 村上 哲
			教授 博士(工学) 渡辺 浩
			教授 博士(工学) 渡辺 亮一
			准教授 博士(工学) 橋本 彰博
			准教授 博士(工学) 櫨原 弘貴
			助教 博士(工学) 下妻 達也
			助教 博士(工学) 田部井優也
			助教 博士(工学) 藤川 拓朗

特修科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
非専修	弾塑性構造力学特論	2	教授 博士(工学) 堺 純一
	合成構造耐震設計特論	2	
	木質材料構造学特論	2	教授 博士(工学) 渡辺 浩
	橋梁学特論	2	
	マトリックス構造解析特論	2	(担当者未定)
	材料力学史特論	2	
	鋼構造弾塑性学特論	2	准教授 博士(工学) 田中 照久
	鋼構造座屈特論	2	
	地震工学特論	2	教授 工学博士 髙山 峯夫
	応答制御構造特論	2	
	建築構造デザイン特論	2	教授 博士(工学) 吉澤 幹夫
	構造計画特論	2	
	コンクリートの材料科学特論	2	准教授 博士(工学) 塚越 雅幸
	コンクリート工学特論	2	准教授 博士(工学) 櫨原 弘貴
	建設材料の耐久性特論	2	准教授 博士(工学) 塚越 雅幸
	複合建設材料工学特論	2	准教授 博士(工学) 櫨原 弘貴
	流体シミュレーション特論	2	准教授 博士(工学) 橋本 彰博
	環境水理学特論	2	
	浄化機能特論	2	教授 博士(工学) 渡辺 亮一
	応用生態工学特論	2	
	地域・住宅地計画特論	2	准教授 博士(工学) 宮崎 慎也
	都市計画・まちづくり特論	2	教授 博士(工学) 辰巳 浩
	都市デザイン特論	2	教授 博士(工学) 柴田 久
	交通計画特論	2	教授 博士(工学) 辰巳 浩
	地域計画・設計特論	2	非常勤講師 工学博士 黒瀬 重幸
	景観学特論	2	教授 博士(工学) 柴田 久
	建築熱環境計画特論	2	教授 博士（工学） 穴井 謙
	建築空気環境計画特論	2	
	建築光環境工学特論	2	
	建築音環境工学特論	2	
	道路舗装工学特論	2	教授 博士(工学) 佐藤 研一 非常勤講師 工学博士 姫野 賢治
	地盤環境工学特論	2	教授 博士(工学) 佐藤 研一 非常勤講師 博士(工学) 肴倉 宏史
	地盤防災工学特論	2	教授 博士(工学) 村上 哲
	地盤シミュレーション工学特論	2	
	建築意匠特論Ⅰ	2	非常勤講師 高木正三郎
	建築意匠特論Ⅱ	2	非常勤講師 赤川 貴雄
	都市史特論	2	教授 博士(工学) 太記 祐一
	建築史特論	2	
	建築設計計画特論	2	教授 博士(工学) 趙 翔
	空間計画学特論	2	教授 博士(人間環境学) 池添 昌幸
	建築構造設計学特論	2	非常勤講師 博士(工学) 稲田 達夫
	地球環境建築生産特論	2	
	建築デザイン演習Ⅰ	4	教授 博士(人間環境学) 池添 昌幸 教授 博士(工学) 太記 祐一 教授 博士(工学) 趙 翔 准教授 博士(工学) 宮崎 慎也 助教 博士(工学) 四ケ所高志 助教 博士(工学) 野口 雄太 助教 博士(工学) 野田 りさ 助教 博士(芸術工学) 松永 一郎 非常勤講師 赤川 貴雄
	建築デザイン演習Ⅱ	4	教授 博士(人間環境学) 池添 昌幸 教授 博士(工学) 太記 祐一 教授 博士(工学) 趙 翔 准教授 博士(工学) 宮崎 慎也 助教 博士(工学) 四ケ所高志 助教 博士(工学) 野口 雄太 助教 博士(工学) 野田 りさ 助教 博士(芸術工学) 松永 一郎 非常勤講師 高木正三郎
	建設設計実習Ⅰ	2	教授 博士(工学) 堺 純一 教授 博士(工学) 太記 祐一
	建設設計実習Ⅱ	2	
	建設設計実習Ⅲ	2	
	建設設計実習Ⅳ	2	

1　学生の標準就業年限は2年とし，所定の授業科目について，合計30単位以上を修得するものとする。
2　主要科目のうちから一つの専修部門（特別研究，特別実験・実習）を選定し，これをその学生の専修科目とする。
3　専修科目の特別研究担当者を指導教員とし，授業科目の選択，学位論文の作成，その他研究一般について，その指導を受けるものとする。
4　1項の30単位は，専修科目10単位及び特修科目20単位以上とし，指導教員が必要と認めた場合は，他の専修又は専攻及び研究科の授業科目を履修し，これを特修科目の単位にあてることができる。
5　修士の学位論文は，専修科目について提出するものとする。

●資源循環・環境工学専攻

本専攻は，資源とエネルギー制約の下，循環型社会の実現に必要な人材を育成することを目指しています。資源循環工学，環境化学制御，環境生態制御，地域環境，環境マネジメント，及び東アジア文化環境の6専修で構成され，文系及び理系を専門とする教員による文理横断的な教育を行っています。なお，本専攻は工学研究科に設置されていますが，文理融合型の大学院として出身の学部・学科を問わず，社会人や留学生を含め，広く門戸を開いています。

令和7年度4月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

専修部門	指導教員	研究内容
資源循環工学	教授　博士(工学)　木下　幸治	社会インフラの環境負荷低減を可能とするエコ・リニューアル工法に関する研究
	教授　博士(工学)　山本　俊浩	(1)環境負荷低減を目指した高分子系複合材料の開発研究 (2)循環型社会を目指したリサイクルに関する基礎的研究
環境化学制御	准教授　博士(農学)　武下　俊宏	(1)埋立廃棄物から生じる硫黄化合物の発生制御に関する研究 (2)廃水の微生物処理（廃食油由来の有機物を用いた脱窒素および嫌気性消化によるメタン生産）に関する研究
環境生態制御	教授　博士(工学)　鈴木　慎也	(1)生活系廃棄物・災害廃棄物の発生抑制に関する研究 (2)廃棄物埋立地における汚染物質の挙動とその制御に関する研究
地域環境	准教授　博士(工学)　為田　一雄	(1)廃棄物管理（処理・処分・資源化）に関する研究 (2)環境修復（土壌汚染・最終処分場早期安定，再生・不法投棄）に関する研究
環境マネジメント	（担当者未定）	
東アジア文化環境	教授　博士(政治学)　大澤　武司	日中関係における資源・環境問題の歴史学・政治学的アプローチによる研究
	教授　博士(文学)　松﨑　真日	社会環境の観点からみた教育研究（主に韓国を対象とする）

授業科目，単位，担当者及び履修方法（令和6年度現在）

主要科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
資源循環工学専修	資源循環工学特別研究	8	教授　博士(工学)　木下　幸治
	資源循環工学特別実験・実習	4	教授　博士(工学)　山本　俊浩
環境化学制御専修	環境化学制御特別研究	8	准教授　博士(農学)　武下　俊宏
	環境化学制御特別実験・実習	4	
環境生態制御専修	環境生態制御特別研究	8	教授　博士(薬学)　田中　綾子
	環境生態制御特別実験・実習	4	教授　博士(工学)　鈴木　慎也
地域環境専修	地域環境特別研究	8	准教授　博士(工学)　為田　一雄
	地域環境特別実験・実習	4	
環境マネジメント専修	環境マネジメント特別研究	8	教授　博士(工学)　柳橋　泰生
	環境マネジメント特別実習	4	
東アジア文化環境専修	東アジア文化環境特別研究	8	教授　博士(政治学)　大澤　武司
	東アジア文化環境特別実習	4	(担当者未定)

共通必修科目		
授業科目	単位数	担当者
資源循環総合演習	6	木下・田中・柳橋・山本・鈴木・武下・為田
実践的環境教育総合実習Ⅰ	2	木下・田中・柳橋・山本・鈴木・武下・為田

共通選択科目		
授業科目	単位数	担当者
実践的環境教育総合実習Ⅱ	2	木下・田中・柳橋・山本・鈴木・武下・為田

特修科目		
授業科目	単位数	担当者
耐久性制御工学特論	2	教授　博士(工学)　木下　幸治
材料特性特論	2	教授　博士(工学)　山本　俊浩
資源循環型経済システム特論	2	(担当者未定)
廃棄物管理システム特論	2	准教授　博士(工学)　為田　一雄
グリーン物流計画特論	2	(担当者未定)
汚染物質処理特論	2	准教授　博士(農学)　武下　俊宏
環境化学装置特論	2	
環境化学特論	2	
水質管理システム特論	2	非常勤講師　山口　実苗
エネルギー変換工学特論	2	教授　工学博士　高尾　幸来
廃棄物資源環境工学特論	2	教授　博士(工学)　鈴木　慎也
環境微生物工学特論	2	准教授　博士(農学)　武下　俊宏
水圏生態学特論	2	(担当者未定)
土壌生態学特論	2	教授　博士(薬学)　田中　綾子
環境アセスメント特論	2	准教授　博士(工学)　為田　一雄
環境調和型都市計画特論	2	(担当者未定)
国際環境計画特論	2	教授　博士(工学)　柳橋　泰生
環境法特論	2	(担当者未定)
環境情報学特論	2	(担当者未定)
環境監査特論Ⅰ	2	非常勤講師　博士(工学)　真次　寛
環境監査特論Ⅱ	2	非常勤講師　北島　保彦
コミュニケーションスキル特論	2	教授　博士(薬学)　田中　綾子 准教授　博士(学術)　平田　修 非常勤講師　前田　結花
環境データ解析特論	2	教授　博士(工学)　木下　幸治
環境行政学特論	2	教授　博士(工学)　柳橋　泰生
環境物理学特論	2	(担当者未定)
中国文化環境特論	2	教授　博士(政治学)　大澤　武司
韓国朝鮮文化環境特論	2	(担当者未定)
英語論作文スキル特論Ⅰ	2	非常勤講師　博士(情報工学)　シャテラン・ロバート
英語論作文スキル特論Ⅱ	2	

1　学生の標準修業年限は2年とし，所定の授業科目について，合計30単位以上を修得するものとする。

2　主要科目のうちから1専修部門を選定し，これをその学生の専修科目とする。

3　専修科目の特別研究担当者を指導教員とし，授業科目の選択，学位論文の作成，その他研究一般について，その指導を受けるものとする。

4　第1項の30単位は，専修科目12単位・共通必修科目8単位・共通選択科目及び特修科目の合計単位とする。指導教員が必要と認めた場合は，他の専攻及び研究科の授業科目を履修し，これを特修科目の単位にあてることができる。

5　修士の学位論文は，専修科目について提出するものとする。

12　そ　の　他

◇　既修得単位認定制度

本学大学院に入学する前に本学大学院及び他の大学院（外国を含む。）において履修した授業科目について修得した単位は，当該研究科通常委員会の議を経て，15 単位を超えない範囲で本学の大学院における授業科目の履修により修得したものとして認めることがあります。希望者は，申請条件や申請時期等について，出願前に大学院事務課へご確認ください。

◇　奨学金制度

・日本学生支援機構奨学金と地方公共団体，民間団体が実施している奨学制度があり，広く活用しています。

　これらの奨学金には，返還義務のある「貸与型奨学金」や返還義務のない「給付型奨学金」があり，条件もそれぞれ異なっていますので，事前の確認を忘れないようにしてください。

・募集・案内等は，内容に応じて大学院事務課前・中央・各学部事務室の掲示板およびＦＵポータルで行います。担当窓口は，学生課の奨学金窓口です。

【貸与型奨学金例（返還義務のあるもの）】

<table>
<tr><th colspan="2">種　類</th><th colspan="2">詳　　細</th></tr>
<tr><td rowspan="4">日本学生支援機構の奨学金</td><td>第一種奨学金
・無利子
・返還免除制度あり</td><td rowspan="2">人物，学業ともに優れ，経済的理由によって修学困難な学生に対し，日本学生支援機構から貸与される制度です。貸与期間は標準修業年限内です。
なお，収入基準額は，学部学生は家計支持者の収入額ですが，大学院生は本人の収入額です。</td><td rowspan="2">《募集時期》
・予約採用　11 月中旬（予定）
　対象者　推薦入試並びに秋季入試合格者
・在学採用　４月上旬
　対象者　全在学生

《採用人員（令和５年度実績）》《貸与額（月額）》
・第一種奨学金
修士課程・博士課程前期　103 名…（５万円・８ 万８千円）
博士課程後期　２名…（８万円・12 万２千円）
博士課程　１名…（８万円・12 万２千円）
・第二種奨学金
修士課程・博士課程前期　16 名
博士課程後期
博士課程　２名
【全課程共通】
（５万円・８万円・10万円・13万円・15万円）</td></tr>
<tr><td>第二種奨学金
・有利子</td></tr>
<tr><td>緊急奨学金
（第一種）／無利子</td><td colspan="2" rowspan="2">家計の急変（主たる家計支持者が失職，破産，事故，病気若しくは死亡又は，火災，風水害の災害等）で奨学金を緊急・応急に必要とする場合（但し，事由発生から１年以内。）に申込むことができます。</td></tr>
<tr><td>応急奨学金
（第二種）／有利子</td></tr>
<tr><td colspan="2">修士段階における
授業料後払い制度</td><td colspan="2">経済的に厳しい状況にある学生が，大学院への進学を断念することがないよう，在学中の授業料を国が立て替え，卒業・修了後の所得に応じて「後払い」とする制度です。
第一種奨学金との併用はできません。
また，授業料後払い制度対象者のうち希望者は，生活費支援金の貸与も併せて受けることができます。（２万円または４万円から選択）</td></tr>
</table>

上記の内容で不明な点等があれば，学生課奨学金担当に相談してください。

◇　（修士課程・博士課程前期進学予定者対象）特に優れた業績による返還免除内定制度

大学院では，大学院在学中に日本学生支援機構第一種奨学金の貸与を受けた学生が，奨学金の貸与期間中に特に優れた業績を挙げたと認められる場合には，貸与奨学金の全額又は半額の返還が免除される，返還免除制度があります。

令和 5 年度より，修士課程（博士課程前期）へ進学を予定している学部生等を対象に，修学に係る経済的不安を早期に解消し，進学へのインセンティブを高めることを目的に「返還免除内定制度」が創設されました。

本制度への申請を希望する場合は，大学院入学前に申請手続が必要です。対象者の条件や申請手続を記載した募集要項は「大学院個別サイト」（https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/）に掲載いたします。

本制度について不明な点等があれば，大学院事務課奨学金担当へお問い合わせください。

【（参考）日本学生支援機構ホームページ】

https://www.jasso.go.jp/shogakukin/saiyochu/gyosekimenjo/tetsuduki/syushinaitei.html

※博士課程後期・博士課程進学者を対象とした返還免除内定制度については，入学後に募集を行いますので，対象者へ個別にお知らせいたします。

《飛び級受験》について

福岡大学に３年以上在学し，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者の大学院受験については，次のとおり行います。

1　研究科及び専攻

研究科名	専攻名	課程名	標準修業年限
工学研究科	機械工学専攻	博士課程前期	2年
	電気工学専攻		
	電子情報工学専攻		
	化学システム工学専攻		

2　出願資格

志願者は，所属する学科において既得卒業要件算入単位数が130単位以上で総履修登録科目平均点が85点以上の者。ただし，電子情報工学専攻にあっては，総履修登録科目平均点で成績の最上位からその差が1.0未満の者

3　出願手続

(1)　提出書類その他

①　志願票（本学所定用紙）
　　副票・受験票（本学所定用紙）

②　「住所シート」（本学所定用紙）

③　英語能力を証明する書類

・機械工学専攻
TOEIC L&R，TOEFL（PBT，CBT，iBT），英検，IELTSのスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&Rテストのオンライン受験は認めません））

・電気工学専攻
TOEIC L&Rのスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと）

・電子情報工学専攻
TOEIC L&R，TOEFL（PBT, CBT, iBT），IELTSのスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&Rテストのオンライン受験は認めません））ただしTOEIC L&Rは300点以上，TOEFL PBTは403点以上，TOEFL CBTは97点以上，TOEFL iBTは32点以上，IELTSは3.5点以上であること。

・化学システム工学専攻
TOEIC L&R，TOEFLまたはIELTSのスコア証明書（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&Rテストのオンライン受験は認めません））

※③で提出できるスコア証明書は，TOEIC L&RはTOEIC L&R公開テスト公式認定書，TOEFLはTOEFLの受験者成績表，IELTSはIELTSの成績証明書とします。（福岡大学において実施されたTOEIC L&R（IP）テストおよびTOEFL（ITP）テストの結果は有効と認めます）

(2)　入学検定料

本学在学生は入学検定料を免除します。

目次に戻る

(3) 出願上の注意

① 出願書類に不備がある場合は受理しないことがあります。記入漏れがないように注意してください。

② 志願票及び副票・受験票の「志望専修部門」欄は，各専攻の入学生を募集する専修部門（9～14 頁参照）の中から 1 部門を選択し，その名称を記入してください。
「指導教員」欄には，志望する専修部門の指導教員 1 名の氏名を記入してください。
※機械工学専攻の志願者は，「第 2 志望」欄も記入してください。

③ 電子情報工学専攻の志願者は，志願票及び副票・受験票の「受験科目」欄に，選択受験する専門科目の名称を記入してください。（6 頁「8　試験科目・試験時間」参照）
なお，受験科目の選択については，志望する指導教員の指導を受けてください。

④ 一度提出された書類の返還請求には応じません。

⑤ 健康の状況について
疾病・障がい等により，受験時および修学上配慮を必要とされる方は，出願前のできるだけ早い時期に大学院事務課へ相談ください。（症状についての具体的内容が記載された診断書を添えてください。障害者手帳をお持ちの方は，そのコピーも添えてください。）

4　願書受付期間・場所

受付期間：令和 7 年 2 月 10 日（月）・ 2 月 12 日（水）
午前 10 時～午後 4 時（正午～午後 1 時を除きます）
※郵送による受付はいたしません（本人が窓口へ持参してください）

受付場所・問合せ先：福岡大学　大学院事務課（福岡大学　中央図書館 6 階）
（092）871－6631　　内線 2913～2916

受験票配付：令和 7 年 2 月 13 日（木）～ 14 日（金）
※大学院事務課の窓口で各自受取ってください。

5　試験日時・試験科目

一般入学試験と同じです。3 頁及び 5～6 頁を参照してください。

6　試験場・試験会場

福岡市城南区七隈八丁目 19 番 1 号　福岡大学内

※試験会場は，試験日当日午前 8 時 30 分に中央図書館西側 1 階入口（大学院エントランス）に掲示します。

※受験者は，全員午前 9 時までに試験会場に入室してください。

7　合　格　発　表

① 合格発表日時

入学試験合格発表	令和 7 年 3 月 10 日（月）午前10時

② 合格者の受験番号を掲示するとともに，合格者へは入学手続書類を郵送（簡易書留）します。不合格者への通知はいたしません。
◆ 掲示場所：大学院事務課前

③ 福岡大学公式ホームページ内の「大学院個別サイト」（https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/）に合格者の受験番号を掲載いたします。

④　合否に関する電話による問合せには一切応じません。

⑤　出願書類及び入学手続書類等に虚偽の記載があった場合は，入学許可を取り消すことがあります。

8　入　学　手　続

※　入学手続書類等の詳細は，合格通知とともにお知らせします。

※　入学申込金・授業料その他諸納入金

8 頁の「⑴　入学に要する経費等」の学費等納入金表を参照してください。ただし，本学在学中の飛び級合格者は入学金を免除します。

※　入学辞退

8 頁の「⑵　入学辞退について」を参照してください。

9　そ　の　他

奨学金制度については 19 頁を参照してください。

※　本試験で大学院に入学した場合，学部学生としての学籍上の取扱いは「退学」となります。したがって，各種国家試験等の受験資格で，大学の「卒業」が要件となっているものについては受験資格がないことになりますので十分留意してください。

なお，教育職員免許状の取得については，教員一種免許取得に必要な単位を修得し，専修免許状に必要な修士の単位及び学位を取得すれば教諭専修免許状の取得が可能です。

博　士　課　程　後　期

《一般入学試験・社会人入学試験》

博士課程後期《一般入学試験・社会人入学試験》

1　募　集　人　員

研究科名	専　攻　名	課　程　名	標準修業年限	入学定員
工学研究科	エネルギー・環境システム工学専攻	博士課程後期	3年	4名
	情報・制御システム工学専攻			4名

※入学定員には，専攻で実施するすべての入学試験の人員を含みます。

2　出　願　資　格

※外国籍を有する方（定住者・永住者・特別永住者を除く）は外国人留学生入学試験を受験してください。博士課程後期の外国人留学生入学試験については，36頁を参照してください。

《一般入学試験》	《社会人入学試験》
次のいずれかの条件に該当する者 ① 修士の学位を有する者又は学校教育法第104条第1項に規定する専門職大学院の課程を修了し文部科学大臣の定める学位を有する者及び令和7年3月までに取得見込みの者 ② 外国において，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者 ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者 ④ 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者 ⑤ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者 ⑥ 外国の学校，第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者 ⑦ 文部科学大臣の指定した者 ⑧ 本学の大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，24歳に達したもの及び令和7年3月までに達するもの(注)	次のいずれかの条件に該当する者で，最終学校を卒業・修了・退学した後，入学時に社会人経験3年以上の者 ① 修士の学位を有する者又は学校教育法第104条第1項に規定する専門職大学院の課程を修了し文部科学大臣の定める学位を有する者（令和4年3月以前に学位を授与された者） ② 外国において，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（令和4年3月以前に学位を授与された者） ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（令和4年3月以前に学位を授与された者） ④ 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（令和4年3月以前に学位を授与された者） ⑤ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者（令和4年3月以前に学位を授与された者） ⑥ 外国の学校，第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者 ⑦ 文部科学大臣の指定した者 ⑧ 本学の大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，27歳に達したもの及び令和7年3月までに達するもの(注)

(注)：出願資格⑧による出願を希望する者は，出願資格審査を行います。26頁【出願資格審査について】を参照してください。

3　願書受付期間・入学試験日

秋季（1回）と春季（1回）の2回実施します。

募集区分	願書受付期間	入学試験日
秋季入学試験	令和6年8月22日(木)～8月26日(月) （土日除く）	令和6年9月9日（月）
春季入学試験	令和7年1月20日(月)～1月23日(木)	令和7年2月17日（月）

(注)：出願資格⑧による出願を希望する者は，書類提出期間が異なります。26頁【出願資格審査について】を参照してください。

4　願書受付時間・場所

①　受付時間：午前10時～午後4時（正午～午後1時を除きます）

②　受付場所・問合せ先

福岡大学　大学院事務課（福岡大学　中央図書館6階）

福岡市城南区七隈八丁目19番1号（〒814-0180）

☎（092）871-6631　内線2913～2916

※郵送の場合は書留郵便とし，受付最終日までに必着とします。

封筒の表には，「工学研究科出願書類在中」と朱書きしてください。

5　出　願　手　続

(1)　提出書類その他

《一般入学試験》	《社会人入学試験》
①　志願票（本学所定用紙） 副票・受験票（本学所定用紙） ②　出身大学院の修了証明書又は修了見込証明書 ③　出身大学院の成績証明書 ④　入学検定料領収書（大学提出） （本学所定の台紙に貼り付けられていること） ⑤　「住所シート」（本学所定用紙）	①　志願票（本学所定用紙） 副票・受験票（本学所定用紙） ※「志願票」裏面の履歴書の記入について ・職歴及び実務経験を記入してください。 ・業績（研究論文，学会発表，特許　等）がある者は記入してください。 ・専門性に係る資格を保有している者は記入してください。 ②　出身大学院の修了証明書 ③～⑤　左記の③④⑤に同じ ⑥　研究計画書（本学所定用紙なし） ※400字以上，A4縦長・横書き （上部に志望専攻・志望専修名及び志願者氏名を記入してください） ⑦　資格取得者は，その証明書の写しを提出してください。
注1：24頁の出願資格②・③・⑤～⑦に該当する者で，上記書類のうち提出不可能なものがある場合は，事前に大学院事務課へ相談してください。 注2：出願資格によっては，上記以外の書類の提出をお願いすることがあります。 注3：改姓された者（証明書使用の姓と現在の姓が異なる者）は，戸籍抄本等，改姓を証明する書類（1年以内に発行されたもの）を添付してください。 注4：本学博士課程前期修了者（修了予定者）が博士課程後期に進学する場合でも，全ての書類が必要です。	

(2)　入学検定料の納入方法

入学検定料	32,000円

入学検定料は，最寄の金融機関（郵便局・ゆうちょ銀行を除く）から本学所定の「振込用紙」に記載された指定金融機関宛に振り込んでください。

なお，振込みの際に受取った「入学検定料領収書（大学提出）」を，指定の入学検定料領収書貼付台紙に貼って，他の出願書類とともに提出してください。

（注）自動振込機（ATM）から振込みを行う場合は，氏名の前に「振込用紙」の「整理番号」を必ずご入力ください。振込みを証明できるもの（利用明細票の写し）を指定の入学検定料領収書貼付台紙に貼って提出してください。

（注）インターネットバンキングによる振込みは受付できません。

(3)　出願上の注意

①　該当する出願資格に記載された条件の内容を必ず確認してください。

② 出願書類に不備がある場合は受理しないことがあります。記入漏れがないように注意してください。

③ 志願票及び副票・受験票の「志望専修部門」欄は，各専攻の入学生を募集する専修部門（29～33頁参照）の中から1部門を選択し，その名称を記入してください。
「指導教員」欄には，志望専修部門の指導教員1名の氏名を記入してください。

④ 秋季入学試験で入学定員に達した専修部門は春季入学試験を実施しない場合がありますので，春季志願者は事前に大学院事務課へ確認してください。

⑤ 一度払い込まれた入学検定料及び提出した書類（論文含む）の返還請求には応じません。

⑥ 健康の状況について
疾病・障がい等により，受験時および修学上配慮を必要とされる方は，出願前のできるだけ早い時期に大学院事務課へ相談ください。（症状についての具体的内容が記載された診断書を添えてください。障害者手帳をお持ちの方は，そのコピーも添えてください。）

【出願資格審査について】

◆出願資格⑧の出願条件
資格：大学，短期大学，高等専門学校，専修学校，各種学校の卒業生，その他の教育施設の修了者であること。

◇書類提出期間：秋季志願者　令和6年 7 月16日（火）～ 7 月18日（木）
春季志願者　令和6年12月 9 日（月）～12月11日（水）
午前10時～午後4時（正午～午後1時を除きます）

◇提 出 書 類：① 志願票（本学所定用紙）
※「志願票」裏面の履歴書の記入について
・職歴及び実務経験を詳しく記入してください。
・業績（研究論文，学会発表，特許　等）がある者は記入し，その現物の写しも提出してください。
・専門性に係る資格を保有している者は記入し，その証明書の写しも提出してください。
② 最終卒業（修了）学校の卒業証明書及び成績証明書
③ 志望動機と目的
※400字以上，A4縦長・横書き（本学所定用紙なし）
※上部に志望専攻・志望専修名及び志願者氏名を記入してください。
④ 研究計画書（社会人志願者のみ）
※400字以上，A4縦長・横書き（本学所定用紙なし）
※上部に志望専攻・志望専修名及び志願者氏名を記入してください。

◇審査結果通知：審査の結果は本人あて通知します。なお，受験が認められた者は，指定された期日までに，入学検定料を納入し，下記の書類を提出してください。入学検定料の納入が確認された後，受験票を送付します。
① 副票・受験票（本学所定用紙）
② 入学検定料領収書（大学提出）※本学所定の台紙に貼り付けられていること
③ 住所シート（本学所定用紙）

6 受　験　票

※出願手続完了者には，「受験票」を送付します。
※試験日の5日前までに到着しない場合は大学院事務課へ連絡してください。
※「受験票」は入学手続完了まで保管してください。

7 試験場・試験会場

福岡市城南区七隈八丁目19番1号　　福岡大学内
※試験会場は，試験日当日の午前8時30分に中央図書館西側1階入口（大学院エントランス）に掲示します。
※受験者は，午前9時までに試験会場に集合してください。

8　試験科目・試験時間

《一　般　入　学　試　験》

■全専攻共通

時　間	試　験　科　目
9：00～	受験上の注意
9：15～10：15	◆　英　　語
10：30～12：00	◆　専門科目　［※他大学院出身者のみ実施］ 専修部門の科目について筆記試験を行う。
(注) 12：40～	◆　面　　接 研究計画に関する口頭試問を行う。 (注) 面接の開始時間は，受験者人数等の諸事情により変更になる場合があります。

《社　会　人　入　学　試　験》

■全専攻共通

時　間	試　験　科　目
9：00～	受験上の注意
9：15～10：15	◆　小 論 文
(注) 12：40～	◆　面　　接 小論文及び研究計画書による口頭試問を行う。 (注) 面接の開始時間は，受験者人数等の諸事情により変更になる場合があります。

9　合　格　発　表

①　合格発表日時

秋季入学試験　合格発表	令和６年９月30日（月）午前10時
春季入学試験　合格発表	令和７年３月10日（月）午前10時

②　合格者の受験番号を掲示するとともに，合格者へ入学手続書類を郵送（簡易書留）します。不合格者への通知はいたしません。

◆ 掲示場所：大学院事務課前

③　福岡大学公式ホームページ内の「大学院個別サイト」（https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/）に合格者の受験番号を掲載いたします。

④　合否に関する電話による問合せには一切応じません。

⑤　出願書類及び入学手続書類等に虚偽の記載があった場合は，入学許可を取り消すことがあります。

10　入　学　手　続

※　入学手続書類等の詳細は，合格通知とともにお知らせします。

※　入学申込金・授業料その他諸納入金の納入については，28頁の「(1)　入学に要する経費等」の学費等納入金表を参照してください。

(1)　入学に要する経費等

学費等納入金表　（単位：円）

項目 ＼ 区分			本学学部卒業	本学大学院修了	他大学卒業・他大学院修了	備考
入学時納入金	入学申込金（入学金）		120,000	0	120,000	入学年度のみ納入
	第一期分学費等納入金	第一期分授業料	280,000	280,000	280,000	毎年度納入
		第一期分教育充実費	70,000	70,000	70,000	
		委託徴収金	3,000	3,000	18,100	
		（小計）	353,000	353,000	368,100	
	計		473,000	353,000	488,100	
第二期払込分	第二期分学費等納入金	第二期分授業料	280,000	280,000	280,000	毎年度納入
		第二期分教育充実費	70,000	70,000	70,000	
	計		350,000	350,000	350,000	
初年度納入金　合計			823,000	703,000	838,100	

◆上記合計金額のうち，「入学申込金」及び「第一期分学費等納入金」として，下記の金額を所定の期日までに納入してください。（納入期限当日の収納日付印まで有効）

費目	本学学部卒業	本学大学院修了	他大学卒業・他大学院修了
入学申込金	120,000	0	120,000
	◇納入期限：秋季入学試験合格者　令和６年10月15日（火） 春季入学試験合格者　令和７年３月18日（火）		
第一期分学費等納入金	353,000	353,000	368,100
	◇納入期限：秋季入学試験合格者・春季入学試験合格者ともに 令和７年３月24日（月）		

※納入期限後はいかなる理由があっても受け付けできません。
※所定の期限までにこれらの手続きを完了してください。
※二年次以降の学費等納入金のうち，「委託徴収金」の金額には多少の変動が生じることがあります。

(2)　入学辞退について

①　合格発表後に入学を辞退する場合は『入学辞退届』を提出してください。

②　入学手続き終了後に入学を辞退する場合は『入学辞退届』を提出した方に限り，入学申込金（入学金）を除く第一期分学費等納入金を返還いたします。

11　各専攻の学生募集専修部門・指導教員及び授業科目・履修方法等の概要

●エネルギー・環境システム工学専攻

本専攻は，熱エネルギー工学，電気エネルギー工学，都市環境工学，環境材料工学，環境プロセス工学および資源循環システム工学の６専修から構成され，エネルギー問題解決のためのエネルギーの生成・変換・伝達および輸送に関する研究と，環境問題に対処するための環境適合化学システムの構築，廃棄物の処理・再資源化技術，さらに環境悪化を防止あるいは改善する機能性材料の研究などを通じて学際的研究を推進しています。

令和７年度４月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

専修部門	指導教員			研究内容
熱エネルギー工学	教授	工学博士	高尾　幸来	(1)低GWP冷媒を用いる冷凍空調機器内の伝熱流動特性およびオイルの影響に関する研究 (2)対向ピストンエンジンの高効率化に関する研究
電気エネルギー工学	教授	博士(工学)	篠原　正典	プラズマー表面相互作用，プラズマを用いたデバイス創製の研究
都市環境工学	教授	博士(工学)	木下　幸治	社会インフラの環境負荷低減を可能とするエコ・リニューアル工法に関する研究
	教授	博士(工学)	堺　純一	建築構造物の弾塑性挙動と構造性能評価法に関する研究
	教授	博士(工学)	佐藤　研一	各種廃棄物の地盤への適用と新しい舗装技術の開発
	教授	博士(工学)	柴田　久	景観や公共施設のデザインに関する研究
	教授	工学博士	髙山　峯夫	免制震技術を用いた応答制御構造と各種デバイスの開発
	教授	博士(工学)	辰巳　浩	快適で持続可能な交通・都市システムに関する研究
	教授	博士(工学)	趙　翔	人間行動と空間の関係に関する研究
	教授	博士(工学)	村上　哲	地盤災害の予測手法の高度化と防止・軽減技術に関する研究
	教授	博士(工学)	渡辺　浩	木質資源の外構材への有効利用と木橋への適用性に関する研究
	教授	博士(工学)	渡辺　亮一	都市内水環境および生態系再生に関する研究
環境材料工学	教授	博士(工学)	森山　茂章	高機能で長寿命な人工関節の開発
	教授	Ph.D.	柳瀬　圭児	材料力学に関する実験的および解析的研究
	教授	博士(工学)	山辺純一郎	脱炭素社会実現に向けた部材の強度設計に関する先進的研究
環境プロセス工学	教授	博士(環境学)	加藤　勝美	化学物質および化学プロセスの発火・爆発危険性に関する研究
	教授	博士(理学)	久保田　純	エネルギー技術に関する触媒開発と，その表面の機能に関する研究
	教授	博士(農学)	重松　幹二	生物の機能と特徴を活かした環境に優しい材料の開発
	教授	博士(工学)	新戸　浩幸	ナノマテリアルの生体・環境影響に関する基礎研究
	教授	博士(工学)	野田　賢	システムズアプローチによる環境配慮型プロセスの開発
	教授	博士(工学)	松隈　洋介	二酸化炭素排出削減に関連した化学装置の開発・高性能化
資源循環システム工学	教授	博士(工学)	山本　俊浩	環境負荷低減を目指す複合材料の強度評価に関する研究

授業科目，単位，担当者及び履修方法（令和６年度現在）

研究指導科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
熱エネルギー工学専修	熱エネルギー工学特別研究Ⅰ	2	教授　工学博士　高尾　幸来
	熱エネルギー工学特別研究Ⅱ	2	
	熱エネルギー工学特別研究Ⅲ	2	
	熱エネルギー工学特別研究Ⅳ	2	
	熱エネルギー工学特別演習Ⅰ	2	
	熱エネルギー工学特別演習Ⅱ	2	
電気エネルギー工学専修	電気エネルギー工学特別研究Ⅰ	2	教授　博士(工学)　篠原　正典
	電気エネルギー工学特別研究Ⅱ	2	
	電気エネルギー工学特別研究Ⅲ	2	
	電気エネルギー工学特別研究Ⅳ	2	
	電気エネルギー工学特別演習Ⅰ	2	
	電気エネルギー工学特別演習Ⅱ	2	
都市環境工学専修	都市環境工学特別研究Ⅰ	2	教授　博士(工学)　木下　幸治 教授　博士(工学)　堺　純一 教授　博士(工学)　佐藤　研一 教授　博士(工学)　柴田　久 教授　工学博士　髙山　峯夫 教授　博士(工学)　辰巳　浩 教授　博士(工学)　趙　翔 教授　博士(工学)　村上　哲 教授　博士(工学)　渡辺　浩 教授　博士(工学)　渡辺　亮一
	都市環境工学特別研究Ⅱ	2	
	都市環境工学特別研究Ⅲ	2	
	都市環境工学特別研究Ⅳ	2	
	都市環境工学特別演習Ⅰ	2	
	都市環境工学特別演習Ⅱ	2	
環境材料工学専修	環境材料工学特別研究Ⅰ	2	教授　工学博士　遠藤　正浩 教授　博士(工学)　森山　茂章 教授　Ph.D.　柳瀬　圭児 教授　博士(工学)　山辺純一郎
	環境材料工学特別研究Ⅱ	2	
	環境材料工学特別研究Ⅲ	2	
	環境材料工学特別研究Ⅳ	2	
	環境材料工学特別演習Ⅰ	2	
	環境材料工学特別演習Ⅱ	2	
環境プロセス工学専修	環境プロセス工学特別研究Ⅰ	2	教授　博士(環境学)　加藤　勝美 教授　博士(理学)　久保田　純 教授　博士(農学)　重松　幹二 教授　博士(工学)　新戸　浩幸 教授　博士(工学)　野田　賢 教授　博士(工学)　松隈　洋介
	環境プロセス工学特別研究Ⅱ	2	
	環境プロセス工学特別研究Ⅲ	2	
	環境プロセス工学特別研究Ⅳ	2	
	環境プロセス工学特別演習Ⅰ	2	
	環境プロセス工学特別演習Ⅱ	2	
資源循環システム工学専修	資源循環システム工学特別研究Ⅰ	2	教授　博士(薬学)　田中　綾子 教授　博士(工学)　山本　俊浩
	資源循環システム工学特別研究Ⅱ	2	
	資源循環システム工学特別研究Ⅲ	2	
	資源循環システム工学特別研究Ⅳ	2	
	資源循環システム工学特別演習Ⅰ	2	
	資源循環システム工学特別演習Ⅱ	2	
部門共通	インターンシップ	2	(各指導教員)

特修科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
	応用エネルギー特論	2	(担当者未定)
	熱エネルギー移動現象特論	2	教授　工学博士　高尾　幸来
	電力システム工学特論Ａ	2	教授　博士(工学)　篠原　正典
	電力システム工学特論Ｂ	2	教授　工学博士　住吉谷　覚
	誘電体物性工学特論	2	(担当者未定)
	都市排水処理工学特論	2	教授　博士(工学)　渡辺　亮一
	再生資源利用工学特論	2	(担当者未定)
	建築環境システム特論	2	教授　博士(工学)　穴井　謙
	都市計画特論	2	(担当者未定)
	免震・制震設計特論	2	教授　工学博士　髙山　峯夫
	地盤防災学特論	2	教授　博士(工学)　村上　哲
	建築計画特論	2	教授　博士(工学)　趙　翔
	舗装・地盤環境工学特論	2	教授　博士(工学)　佐藤　研一

部　門	授業科目	単位数	担当者
	構造工学特論	2	(担当者未定)
	橋梁工学特論	2	教授　博士(工学)　渡辺　浩
	交通・都市システム特論	2	教授　博士(工学)　辰巳　浩
	建築生産工学特論	2	教授　博士(工学)　吉澤　幹夫
	耐震工学特論	2	教授　博士(工学)　堺　純一
	景観デザイン特論	2	教授　博士(工学)　柴田　久
	住環境デザイン特論	2	教授　博士(人間環境学)　池添　昌幸
	材料強度学特論	2	教授　工学博士　遠藤　正浩
	生体材料学特論	2	教授　博士(工学)　森山　茂章
	構造材料工学特論	2	准教授　博士(工学)　櫨原　弘貴
	高分子材料工学特論	2	(担当者未定)
	材料強度解析特論	2	教授　Ph.D.　柳瀬　圭児
	機械材料学特論	2	教授　博士(工学)　山辺純一郎
	界面コロイド工学特論	2	教授　博士(工学)　新戸　浩幸
	環境装置工学特論	2	教授　博士(理学)　久保田　純
	環境分離工学特論	2	教授　博士(工学)　松隈　洋介
	環境適合化学プロセス特論	2	教授　博士(工学)　野田　賢
	生物材料工学特論	2	教授　博士(農学)　重松　幹二
	環境安全化学特論	2	教授　博士(環境学)　加藤　勝美
	環境工学特論	2	教授　博士(薬学)　田中　綾子
	環境触媒特論	2	(担当者未定)
	廃棄物処理工学特論	2	教授　博士(工学)　鈴木　慎也
	廃棄物処分システム特論	2	准教授　博士(工学)　為田　一雄
	建設廃棄物処理特論	2	(担当者未定)

1　学生の標準修業年限は3年とし，所定の授業科目について，合計16単位以上を修得しなければならない。ただし，優れた研究業績を上げた者については，1年以上在学すれば足りるものとする。

2　学生は，研究指導科目のうちから選定した一つの部門を専修部門とし，主指導教員及び副指導教員から授業科目の選択，学位論文の作成その他研究全般について指導を受けるものとする。

3　主指導教員は，専修部門の特別研究科目の担当者とする。

4　副指導教員は，専修部門又はこれと関連する部門の担当者のうちから主指導教員が選ぶものとする。

5　第1項の16単位は，原則として次の区分によって修得しなければならない。

⑴　研究指導科目のうちから，必修として専修部門の特別研究科目8単位，選択必修として専修部門の特別演習科目及び部門共通科目のうちから4単位の計12単位

⑵　特修科目から4単位以上

6　主指導教員が必要と認めた場合は，学際プログラム，他専攻，他研究科，全研究科共通科目又は他大学大学院の授業科目を履修し，これを特修科目の単位にあてることができる。

7　博士の学位論文は，専修部門について提出するものとする。

8　主指導教員が認めた場合は，学際プログラムの授業科目を履修することにより課程修了に必要な単位を修得することができる。

9　学際プログラムの授業科目，単位及び履修方法については，別表第7の第8に定める。

●情報・制御システム工学専攻

本専攻は，情報処理工学，情報伝送工学，システム制御工学，機能デバイス工学の４専修で構成されています。知的情報処理，言語工学，音声情報処理，システム／ソフトウェア工学，ディジタル通信工学を含む情報伝送，電磁波工学，光情報処理，パワー半導体を用いた電力変換，ロボット制御に関する研究，さらにシステムをハード面で支える各種機能素子の研究などを複数の専門領域から多角的に展開しています。

令和７年度４月入学生を募集する専修部門と指導教員及び研究内容

専修部門	指導教員	研究内容
情報処理工学	教授　博士(工学)　佐藤　寿倫	高性能・低電力・高信頼性システムアーキテクチャの研究
	教授　博士(工学)　髙橋　伸弥	音声・画像・大規模データの人工知能応用技術に関する研究
	教授　博士(工学)　中西　恒夫	組込みシステムとその開発方法論に関する研究
	教授　Ph.D.　モシニャガ・ワシリー	サイバーフィジカルシステムに関する研究
情報伝送工学	教授　博士(情報工学)　太郎丸　眞	ディジタル無線通信システムとソフトウエア無線機の回路と信号処理に関する研究
	教授　博士(工学)　孟　志奇	電磁波の応用技術と数値解析手法に関する研究
システム制御工学	教授　博士(工学)　岩村　誠人	マルチボディダイナミクス理論の開発とそのロボティクスへの応用に関する研究
	教授　博士(工学)　小浜　輝彦	スイッチング電源およびアナログ回路に関する研究
	教授　工学博士　根葉　保彦	電力変換器の開発と応用システムの研究
機能デバイス工学	教授　博士(工学)　末次　正	高周波スイッチング増幅器に関する研究，半導体実装に関する研究，機能性デバイスに関する研究
	教授　博士(理学)　鈴木　孝将	電子材料の物性に関するナノエレクトロニクス分野の研究
	教授　博士(工学)　名倉　徹	半導体集積回路に関する研究
	教授　博士(工学)　文仙　正俊	光情報記録，光情報処理や光計測に関する研究
	教授　工学博士　三島　健司	高圧力技術を用いた機能性材料創製に関する研究

授業科目，単位，担当者及び履修方法（令和６年度現在）

研究指導科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
情報処理工学専修	情報処理工学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(工学) 佐藤 寿倫
	情報処理工学特別研究Ⅱ	2	教授 博士(工学) 髙橋 伸弥
	情報処理工学特別研究Ⅲ	2	教授 博士(工学) 中西 恒夫
	情報処理工学特別研究Ⅳ	2	教授 Ph.D. ﾓｼﾆｬｶﾞ, ﾜｼﾘｰ
	情報処理工学特別研究Ⅴ	2	
	情報処理工学特別研究Ⅵ	2	
情報伝送工学専修	情報伝送工学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(工学) 大橋 正良
	情報伝送工学特別研究Ⅱ	2	教授 博士(情報工学) 太郎丸 眞
	情報伝送工学特別研究Ⅲ	2	教授 博士(工学) 孟 志奇
	情報伝送工学特別研究Ⅳ	2	
	情報伝送工学特別研究Ⅴ	2	
	情報伝送工学特別研究Ⅵ	2	
システム制御工学専修	システム制御工学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(工学) 岩村 誠人
	システム制御工学特別研究Ⅱ	2	教授 博士(工学) 小浜 輝彦
	システム制御工学特別研究Ⅲ	2	教授 工学博士 根葉 保彦
	システム制御工学特別研究Ⅳ	2	
	システム制御工学特別研究Ⅴ	2	
	システム制御工学特別研究Ⅵ	2	
機能デバイス工学専修	機能デバイス工学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(工学) 末次 正
	機能デバイス工学特別研究Ⅱ	2	教授 博士(理学) 鈴木 孝将
	機能デバイス工学特別研究Ⅲ	2	教授 博士(工学) 名倉 徹
	機能デバイス工学特別研究Ⅳ	2	教授 博士(工学) 文仙 正俊
	機能デバイス工学特別研究Ⅴ	2	教授 工学博士 三島 健司
	機能デバイス工学特別研究Ⅵ	2	
部門共通	インターンシップ	2	（各指導教員）

特修科目			
部門	授業科目	単位数	担当者
	言語工学特論A	2	教授 工学博士 吉村 賢治
	言語工学特論B	2	（担当者未定）
	知能処理特論A	2	教授 博士(工学) 髙橋 伸弥
	知能処理特論B	2	教授 博士(工学) 鶴田 直之
	知能処理特論C	2	教授 工学博士 吉村 賢治
	情報処理工学特論A	2	教授 博士(工学) 佐藤 寿倫
	情報処理工学特論B	2	教授 Ph.D. ﾓｼﾆｬｶﾞ, ﾜｼﾘｰ
	情報処理工学特論C	2	教授 博士(工学) 中西 恒夫
	情報処理工学特論D	2	教授 博士(工学) 江田 孝治
	伝送素子特論	2	（担当者未定）
	情報伝送工学特論A	2	教授 博士(情報工学) 太郎丸 眞
	情報伝送工学特論B	2	（担当者未定）
	情報伝送工学特論C	2	教授 博士(工学) 孟 志奇
	情報伝送工学特論D	2	（担当者未定）
	パワーエレクトロニクス特論A	2	教授 博士(工学) 小浜 輝彦
	パワーエレクトロニクス特論B	2	教授 工学博士 根葉 保彦
	機械システム制御特論A	2	（担当者未定）
	機械システム制御特論B	2	教授 博士(工学) 岩村 誠人
	機械システム制御特論C	2	（担当者未定）
	機能デバイス工学特論A	2	教授 博士(工学) 文仙 正俊
	機能デバイス工学特論B	2	教授 博士(工学) 末次 正
	機能デバイス工学特論C	2	教授 工学博士 三島 健司
	機能デバイス工学特論D	2	教授 博士(工学) 名倉 徹
	デバイス材料工学特論	2	教授 博士(理学) 鈴木 孝将

1　学生の標準修業年限は３年とし，所定の授業科目について，合計16単位以上を修得しなければならない。ただし，優れた研究業績を上げた者については，１年以上在学すれば足りるものとする。

2　学生は，研究指導科目のうちから選定した一つの部門を専修部門とし，主指導教員及び副指導教員から授業科目の選択，学位論文の作成その他研究全般について指導を受けるものとする。

3　主指導教員は，専修部門の特別研究科目の担当者とする。

4　副指導教員は，専修部門又はこれと関連する部門の担当者のうちから主指導教員が選ぶものとする。

5　第１項の16単位は，原則として次の区分によって修得しなければならない。

(1)　研究指導科目のうちから，必修として専修部門の特別研究のⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ8単位，選択必修として専修部門の特別研究のⅤ，Ⅵ及び部門共通科目のうちから４単位，計12単位

(2)　特修科目から４単位以上

6　主指導教員が必要と認めた場合は，学際プログラム，他専攻，他研究科，全研究科共通科目又は他大学大学院の授業科目を履修し，これを特修科目の単位にあてることができる。

7　博士の学位論文は，専修部門について提出するものとする。

8　主指導教員が認めた場合は，学際プログラムの授業科目を履修することにより課程修了に必要な単位を修得することができる。

9　学際プログラムの授業科目，単位及び履修方法については，別表第７の第８に定める。

12 そ　の　他

◇　既修得単位認定制度

本学大学院に入学する前に本学大学院及び他の大学院（外国を含む。）において履修した授業科目について修得した単位は，当該研究科通常委員会の議を経て，15 単位を超えない範囲で本学の大学院における授業科目の履修により修得したものとして認めることがあります。希望者は，申請条件や申請時期等について，出願前に大学院事務課へご確認ください。

◇　奨学金制度

・日本学生支援機構奨学金と地方公共団体，民間団体が実施している奨学制度があり，広く活用しています。

　これらの奨学金には，返還義務のある「貸与型奨学金」や返還義務のない「給付型奨学金」があり，条件もそれぞれ異なっていますので，事前の確認を忘れないようにしてください。

・募集・案内等は，内容に応じて大学院事務課前・中央・各学部事務室の掲示板およびＦＵポータルで行います。担当窓口は，学生課の奨学金窓口です。

【貸与型奨学金例（返還義務のあるもの）】

<table>
<tr><th colspan="2">種　類</th><th colspan="2">詳　　細</th></tr>
<tr><td rowspan="4">日本学生支援機構の奨学金</td><td>第一種奨学金
・無利子
・返還免除制度あり</td><td rowspan="2">人物，学業ともに優れ，経済的理由によって修学困難な学生に対し，日本学生支援機構から貸与される制度です。貸与期間は標準修業年限内です。
なお，収入基準額は，学部学生は家計支持者の収入額ですが，大学院生は本人の収入額です。
【入学時特別増額貸与】
１年次において，第一種または，第二種奨学金の貸与を受ける方で，希望者は所定の手続きにより交付初回のみ増額して貸与を申込むことができます。（10 万円，20 万円，30 万円，40 万円，50 万円から選択）</td><td rowspan="2">《募集時期》
・予約採用　11 月中旬（予定）
　対象者　推薦入試並びに秋季入試合格者
・在学採用　４月上旬
　対象者　全在学生

《採用人員（令和５年度実績）》《貸与額（月額）》
・第一種奨学金
修士課程・博士課程前期　103 名…（５万円・８ 万８千円）
博士課程後期　２名…（８万円・12 万２千円）
博士課程　１名…（８万円・12 万２千円）
・第二種奨学金
修士課程・博士課程前期　16 名
博士課程後期
博士課程　２名
【全課程共通】
（５万円・８万円・10万円・13万円・15万円）</td></tr>
<tr><td>第二種奨学金
・有利子</td></tr>
<tr><td>緊急奨学金
（第一種）／無利子</td><td colspan="2" rowspan="2">家計の急変（主たる家計支持者が失職，破産，事故，病気若しくは死亡又は，火災，風水害の災害等）で奨学金を緊急・応急に必要とする場合（但し，事由発生から１年以内。）に申込むことができます。</td></tr>
<tr><td>応急奨学金
（第二種）／有利子</td></tr>
</table>

上記の内容で不明な点等があれば，学生課奨学金担当に相談してください。

博士課程前期・修士課程・博士課程後期

≪外国人留学生入学試験≫

外国人留学生進路説明会

詳細が決まりましたら，福岡大学公式ホームページ内の「大学院個別サイト」（https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/）へ掲載します。

≪外国人留学生入学試験≫

博士課程前期・修士課程・博士課程後期

◇国内志願者とは，既に日本国に在留している志願者です。
◇国外志願者とは，受験のために外国から日本国に来る志願者です。

1 募 集 人 員

博士課程前期・修士課程は２頁，博士課程後期は24頁を参照してください。

2 出 願 資 格

《博士課程前期・修士課程》	《博士課程後期》
次のいずれかの条件に該当する者で，★印の要件を満たす者 ① 学校教育法第83条の日本の大学を卒業した者及び令和７年３月までに卒業見込みの者 ② 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和７年３月までに修了見込みの者 ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和７年３月までに修了見込みの者 ④ 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和７年３月までに修了見込の者 ⑤ 外国の大学その他の外国の学校＊1）において，修業年限が３年以上である課程を修了すること＊2）により，学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和７年３月までに授与される見込みの者 ＊１）その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。 ＊２）当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。 ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和７年３月までに修了見込の者 ⑦ 学校教育法第102条第２項の規定（飛び級入学）により日本の大学院に入学した者であって，本学の大学院において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの(注) ⑧ 本学の大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，22歳に達したもの及び令和７年３月までに達するもの(注) ★在学中の経費支弁能力のある者 ★日本語で講義・研究指導を受ける者は，指定された日本語能力がある者	次のいずれかの条件に該当する者で，★印の要件を満たす者 ① 日本の大学院において，修士の学位を授与された者又は学校教育法第104条第１項に規定する専門職大学院の課程を修了し文部科学大臣の定める学位を有する者及び令和７年３月までに取得見込みの者 ② 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和７年３月までに授与される見込みの者 ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和７年３月までに授与される見込みの者 ④ 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和７年３月までに授与される見込みの者 ⑤ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第１条第２項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和７年３月までに授与される見込みの者 ⑥ 外国の学校，第４号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第16条の２に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者 ⑦ 本学の大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，24歳に達したもの及び令和７年３月までに達するもの(注) ★在学中の経費支弁能力のある者 ★日本語で講義・研究指導を受ける者は，指定された日本語能力がある者
（注）出願資格⑦・⑧に該当し出願を希望する者は，第一次選考（書類審査及び出願資格審査）において資格審査を行います。	（注）出願資格⑦に該当し出願を希望する者は，第一次選考（書類審査及び出願資格審査）において資格審査を行います。

目次に戻る

3　願書受付期間・入学試験日

募集区分			願書受付期間	試験日
課程	試験季別	対象		
博士課程前期 修士課程 博士課程後期	秋季 入学試験	国内志願者	令和6年7月16日(火)～7月18日(木)	令和6年9月9日(月)
	春季 入学試験	国外志願者	随時受付（ただし，土日及び大学の休業日を除く） 【最終締切日】 令和6年10月31日(木)	令和7年2月17日(月)
		国内志願者	令和6年12月9日(月)～12月11日(水)	

4　願書（第1次選考書類）受付時間・場所

①　受付時間
午前10時～午後4時（正午～午後1時を除きます）

②　受付場所・問合せ先
福岡大学　大学院事務課（福岡大学　中央図書館6階）
福岡市城南区七隈八丁目19番1号（〒814-0180）
☎（092）871－6631　内線2913～2916

※郵送の場合は書留郵便とし，受付最終日までに必着とします。
封筒の表には，「工学研究科出願書類在中」と朱書きしてください。

5　出願手続

(1)　提出書類その他（**※国外志願者は出願書類が異なりますので，大学院事務課までお問合せください。**）

以下の事項に注意し，必要書類を提出してください。なお，出願資格によっては，提出書類以外の書類提出をお願いすることがあります。

＊提出書類は，出願資格により異なります。該当する提出書類一覧の「博士課程前期・修士課程」・「博士課程後期」それぞれの欄で，○印の付いた書類はすべて提出してください。
＊本学博士課程前期修了者（修了予定者）が博士課程後期に進学する場合でも，全ての書類が必要です。
＊本人が記入する書類は，特に指定のない限りすべて日本語で記入してください。
＊提出書類は，写しを許可されたもの以外，すべて本書を提出してください。（コピーは受付けません。）
写しを要するものは，受付時に大学院事務課で写しをとり，本書は返却いたします。
＊証明書等は，原則として発行日から3ヵ月以内のものを提出してください。
＊母国語で作成された書類には，和文又は英文の翻訳文を添付してください。

《国内志願者》 出願資格：博士課程前期・修士課程①～⑥及び博士課程後期①～⑥による志願者		
提出書類	博士課程前期 修士課程	博士課程 後期
1．志願票 外国人留学生用 ・副票・受験票（本学所定用紙）	○	○
2．成績証明書 ・博士課程前期・修士課程の志願者は，出身大学等の成績証明書 ・博士課程後期の志願者は，出身大学及び出身大学院の成績証明書 ※詳細はp. 42で確認してください。	○	○
3．卒業・修了に関する証明 ・博士課程前期・修士課程の志願者は，出身大学等の卒業証明書（卒業証書でも可）又は卒業見込証明書 ・博士課程後期の志願者は，出身大学院の修了証明書（修了証書でも可）又は修了見込証明書 ※詳細はp. 42で確認してください。	○	○
4．修士論文の内容の要旨 ※日本語で書かれたもの　A4縦長・横書き，書式は自由。なお，博士課程後期の各専攻の志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者は英語のものも認める。		○

目次に戻る

提　出　書　類	博士課程前期 修士課程	博士課程 後期
5．研究計画書（本学所定用紙） ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。（ワープロ作成のものは不可）なお，化学システム工学専攻及び博士課程後期の各専攻の志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。	○	○
6．志望理由書（本学所定用紙） ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。（ワープロ作成のものは不可）なお，化学システム工学専攻及び博士課程後期の各専攻の志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。	○	○
7．英語能力を証明する書類 ・機械工学専攻 TOEIC L&R，TOEFL（PBT，CBT，iBT），英検，IELTS のスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ・電気工学専攻 TOEIC L&Rのスコア証明書(受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと) ・電子情報工学専攻 TOEIC L&R，TOEFL（PBT, CBT, iBT），IELTSのスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません））ただし TOEIC L&R は 300 点以上，TOEFL PBT は 403 点以上，TOEFL CBT は 97 点以上，TOEFL iBT は 32 点以上，IELTS は 3.5 点以上であること。 ・化学システム工学専攻 TOEIC L&R，TOEFLまたはIELTS のスコア証明書（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ・建設工学専攻 TOEIC L&RまたはTOEFLのスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ・博士課程後期の各専攻（英語で講義を受けることを希望する者のみ） TOEIC L&R，TOEFLまたはIELTS のスコア証明書（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ※提出できるスコア証明書は，TOEIC L&RはTOEIC L&R公開テスト公式認定書，TOEFLはTOEFLの受験者成績表，IELTSはIELTSの成績証明書とします。（福岡大学において実施されたTOEIC L&R（IP）テストおよびTOEFL（ITP）テストの結果は有効と認めます）	該当者のみ	該当者のみ
8．日本語能力証明 工学研究科では「日本語能力試験」N2 レベル（２級）以上の日本語能力を有することが条件です。（但し，化学システム工学専攻及び博士課程後期の各専攻の志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者には，この条件を適用しません） 以下のいずれか１つを提出してください。 ① （財）日本国際教育支援協会又は国際交流基金が実施する「日本語能力試験」N1 またはN2 レベル（2009 年以前の受験生は，１級または２級）の合格認定書 ② 日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」の成績通知書 ※ただし，過去２年間において実施された試験のいずれかにおいて，聴解・聴読解・読解の合計が 200 点以上の成績を得ていること。 ③ 上記①または②の書類提出が不可能な場合は,「日本語能力認定書」（本学所定用紙） ※「日本語能力認定書」は日本語講師，日本政府の在外公館員，その他適当と思われる者に記入を依頼してください。	○	○
9．経費支弁計画書（本学所定用紙）	○	○
10．１年分の学費・生活費の支払能力があることを証明する書類 （「経費支弁計画書」の収入を立証する書類） 次の①・②（全員提出）と③～⑥で該当するものを全て提出してください。 ① 志願者名義の預金残高証明書（日本円又はUSドルによるもの） ② 当該預金の過去１年間の入出金の経緯が明らかになる預金通帳等の現物 ※提出不可能な場合は，その理由書を添付してください。（A4サイズ　書式は自由） ※郵送の場合は，必要な部分の全てのページの写し ③ 「資格外活動許可書」を取得している者はその写し ④ 入学年４月以降に奨学金受給が決定している者は奨学金受給証明書 ⑤ 外国（本国の親族等）からの送金を受ける場合は，送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙）※注） ⑥ 在日する親族等からの送金を受ける場合は，送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙）※注） ※印鑑は実印を使用してください。 ※注）⑤・⑥の「経費支弁書」が母国語で作成されている場合は，和文又は英文の翻訳文を添付してください。	○	○

提　出　書　類	博士課程前期 修士課程	博士課程 後期
11．住民票（マイナンバーの記載がないもの） ※市町村区役所発行のもので，在留カード№（又は外国人登録番号）・在留資格・在留期限が明記されたもの	○	○
12．パスポート（大学院事務課で写しをとりますので，原本を持参願います。） ※郵送の場合は，氏名・国籍・パスポート番号・顔写真が記載されているページの写し	○	○
13．日本国内の大学で研究歴がある者は，その証明書	該当者のみ	
14．住所シート（本学所定用紙）	○	○
15．提出書類チェックリストＡ（本学所定用紙）	○	○

《　国　内　志　願　者　》
出願資格：博士課程前期・修士課程⑦による志願者

◇**出願条件**：日本の大学から日本の大学院へ飛び級入学した者であること。

提　出　書　類	博士課程前期 修 士 課 程
1．志願票 外国人留学生用 ・副票・受験票（本学所定用紙）	○
2．出身大学の成績証明書	○
3．在籍期間及び退学年月日が記載された出身大学の証明書	○
4．入学年月日が記載された出身大学院の証明書	○
5．研究計画書（本学所定用紙） ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。（ワープロ作成のものは不可）なお，化学システム工学専攻志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。	○
6．志望理由書（本学所定用紙） ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。（ワープロ作成のものは不可）なお，化学システム工学専攻志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。	○
7．英語能力を証明する書類 ・機械工学専攻 TOEIC L&R，TOEFL（PBT，CBT，iBT），英検，IELTS のスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ・電気工学専攻 TOEIC L&Rのスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ・電子情報工学専攻 TOEIC L&R，TOEFL（PBT, CBT, iBT），IELTSのスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ただし TOEIC L&R は 300 点以上，TOEFL PBT は 403 点以上，TOEFL CBT は 97 点以上，TOEFL iBT は 32 点以上，IELTS は 3.5 点以上であること。 ・化学システム工学専攻 TOEIC L&R，TOEFLまたはIELTSのスコア証明書（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ・建設工学専攻 TOEIC L&RまたはTOEFLのスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ※提出できるスコア証明書は，TOEIC L&RはTOEIC L&R公開テスト公式認定書，TOEFLはTOEFLの受験者成績表，IELTSはIELTSの成績証明書とします。（福岡大学において実施されたTOEIC L&R（IP）テストおよびTOEFL（ITP）テストの結果は有効と認めます）	該当者のみ
8．日本語能力証明 工学研究科では「日本語能力試験」N2 レベル（２級）以上の日本語能力を有することが条件です。（但し，化学システム工学専攻志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者には，この条件を適用しません） 以下のいずれか１つを提出してください。 ①　（財）日本国際教育支援協会又は国際交流基金が実施する「日本語能力試験」 N1 またはN2 レベル（2009 年以前の受験生は，１級または２級）の合格認定書 ②　日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」の成績通知書 ※ただし，過去２年間において実施された試験のいずれかにおいて，聴解・聴読解・読解の合計が 200 点以上の成績を得ていること。 ③　上記①または②の書類提出が不可能な場合は，「日本語能力認定書」（本学所定用紙） ※「日本語能力認定書」は日本語講師，日本政府の在外公館員，その他適当と思われる者に記入を依頼してください。	○

提　出　書　類	博士課程前期 修士課程
9．経費支弁計画書（本学所定用紙）	○
10．１年分の学費・生活費の支払能力があることを証明する書類 （「経費支弁計画書」の収入を立証する書類） 次の①・②（全員提出）と③～⑥で該当するものを提出してください。 ①　志願者名義の預金残高証明書（日本円又はUSドルによるもの） ②　当該預金の過去１年間の入出金の経緯が明らかになる預金通帳等の現物 ※提出不可能な場合は，その理由書を添付してください。（A4サイズ　書式は自由） ※郵送の場合は，必要な部分の全てのページの写し ③「資格外活動許可書」を取得している者はその写し ④　入学年４月以降に奨学金受給が決定している者は奨学金受給証明書 ⑤　外国（本国の親族等）からの送金を受ける場合は，送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙）※注） ⑥　在日する親族等からの送金を受ける場合は，送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙）※注） ※印鑑は実印を使用してください。 ※注）⑤・⑥の「経費支弁書」が母国語で作成されている場合は，和文又は英文の翻訳文を添付してください。	○
11．住民票（マイナンバーの記載がないもの） ※市町村区役所発行のもので，在留カード№（又は外国人登録番号）・在留資格・在留期限が明記されたもの	○
12．パスポート（大学院事務課で写しをとりますので，原本を持参願います。） ※郵送の場合は，氏名・国籍・パスポート番号・顔写真が記載されているページの写し	○
13．日本国内の大学で研究歴がある者は，その証明書	該当者のみ
14．住所シート（本学所定用紙）	○
15．提出書類チェックリストＢ（本学所定用紙）	○

《　国　内　志　願　者　》

出願資格：博士課程前期・修士課程⑧及び博士課程後期⑦による志願者

◇**出願条件**：短期大学,高等専門学校,専修学校,各種学校の卒業生,その他の教育施設の修了者であること。
（博士課程後期志願者には，大学卒業者を含む。）

提　出　書　類	博士課程前期 修士課程	博士課程 後期
1．志願票 外国人留学生用 ・副票・受験票（本学所定用紙） ※「志願票」裏面について ・職歴または研究歴がある者は記入してください。 ・業績（著書・研究論文・学会発表・特許）がある者は「資格・賞罰等」の欄に記入し，その現物の写しも提出してください。 ・専門性に係る資格及び実務経験がある者は「資格・賞罰等」の欄に記入してください。（資格保有者は，その証明書の写しを添付してください）	○	○
2．最終卒業又は修了学校の成績証明書 ※詳細はp. 42で確認してください。	○	○
3．最終卒業又は修了学校の卒業証明書（卒業証書でも可） ※詳細はp. 42で確認してください。	○	○
4．研究計画書（本学所定用紙） ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。（ワープロ作成不可）なお，化学システム工学専攻及び博士課程後期の各専攻の志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。	○	○
5．志望理由書（本学所定用紙） ※日本語で志願者本人の自筆によるもの。（ワープロ作成不可）なお，化学システム工学専攻及び博士課程後期の各専攻の志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者は英語のワープロのものも認める。	○	○
6．最終学歴以降の活動歴　※1,000字程度。A4縦長・横書で書式は自由。	○	○

提　出　書　類	博士課程前期 修士課程	博士課程 後期
7．英語能力を証明する書類 ・機械工学専攻 TOEIC L&R，TOEFL（PBT，CBT，iBT），英検，IELTS のスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ・電気工学専攻 TOEIC L&Rのスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ・電子情報工学専攻 TOEIC L&R, TOEFL (PBT, CBT, iBT), IELTSのスコア証明書のいずれか。（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません））ただし TOEIC L&R は 300 点以上，TOEFL PBT は 403 点以上，TOEFL CBT は 97 点以上，TOEFL iBT は 32 点以上，IELTS は 3.5 点以上であること。 ・化学システム工学専攻 TOEIC L&R，TOEFL またはIELTS のスコア証明書（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと。（TOEIC L&R テストのオンライン受験は認めません）） ・建設工学専攻 TOEIC L&RまたはTOEFLのスコア証明書（受験した者のみ提出，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ・博士課程後期の各専攻（英語で講義を受けることを希望する者のみ） TOEIC L&R，TOEFL またはIELTS のスコア証明書（**提出必須**，コピー可，但し試験日当日原本持参のこと） ※提出できるスコア証明書は，TOEIC L&RはTOEIC L&R公開テスト公式認定書，TOEFLはTOEFLの受験者成績表，IELTSはIELTSの成績証明書とします。（福岡大学において実施されたTOEIC L&R（IP）テストおよびTOEFL（ITP）テストの結果は有効と認めます）	該当者のみ	該当者のみ
8．日本語能力証明 工学研究科では「日本語能力試験」N2 レベル（２級）以上の日本語能力を有することが条件です。（但し，化学システム工学専攻及び博士課程後期の各専攻の志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する者には，この条件を適用しません） 以下のいずれか１つを提出してください。 ① （財）日本国際教育支援協会又は国際交流基金が実施する「日本語能力試験」N1 またはN2 レベル（2009 年以前の受験生は，１級または２級）の合格認定書 ② 日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」の成績通知書 ※ただし，過去２年間において実施された試験のいずれかにおいて，聴解・聴読解・読解の合計が 200 点以上の成績を得ていること。 ③ 上記①または②の書類提出が不可能な場合は，「日本語能力認定書」（本学所定用紙） ※「日本語能力認定書」は日本語講師，日本政府の在外公館員，その他適当と思われる者に記入を依頼してください。	○	○
9．経費支弁計画書（本学所定用紙）	○	○
10．１年分の学費・生活費の支払能力があることを証明する書類 （「経費支弁計画書」の収入を立証する書類） 次の①・②（全員提出）と③～⑥で該当するものを全て提出してください。 ① 志願者名義の預金残高証明書（日本円又はUSドルによるもの） ② 当該預金の過去１年間の入出金の経緯が明らかになる預金通帳等の現物 ※提出不可能な場合は，その理由書を添付してください。（A4サイズ　書式は自由） ※郵送の場合は，必要な部分の全てのページの写し ③ 「資格外活動許可書」を取得している者はその写し ④ 入学年４月以降に奨学金受給が決定している者は奨学金受給証明書 ⑤ 外国（本国の親族等）からの送金を受ける場合は，送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙）※注） ⑥ 在日する親族等からの送金を受ける場合は，送金者本人が自筆により作成した経費支弁書（本学所定用紙）※注） ※印鑑は実印を使用してください。 ※注）⑤・⑥の「経費支弁書」が母国語で作成されている場合は，和文又は英文の翻訳文を添付してください。	○	○
11．住民票（マイナンバーの記載がないもの） ※市町村区役所発行のもので，在留カード№（又は外国人登録番号）・在留資格・在留期限が明記されたもの	○	○
12．パスポート（大学院事務課で写しをとりますので，原本を持参願います。） ※郵送の場合は，氏名・国籍・パスポート番号・顔写真が記載されているページの写し	○	○
13．日本国内の大学で研究歴がある者は，その証明書	該当者のみ	
14．住所シート（本学所定用紙）	○	○
15．提出書類チェックリストC（本学所定用紙）	○	○

〈外国人留学生　卒業/修了（見込）証明書、成績証明書、学位取得証明書について〉

・全ての証明書は、日本語又は英語で作成された原本であること。日本語・英語以外の言語で作成されたものは、日本語または英語の翻訳文を原本のコピーに添付して提出すること。
・卒業・修了に関する証明書に学位に係る記載がない場合は、学位の取得又は取得見込みを立証する書類の原本を提出すること。
・提出された証明書の原本は返却しません。
※原本を提出できない場合は、Certified true copy（証書の原本から正しく複製されたものであることを証明した公証書）を提出すること。

〈中国の教育機関出身の志願者へ〉

中国の教育機関出身者は、下記の認証機関において認証した「中国語版電子報告書」（学位・学歴・成績）を提出してください。

【学位取得証明書】

学位（学士号）の「認証報告」（中国語版電子報告書）

『中国高等教育学生信息网（CHSI）』（https://www.chsi.com.cn）が認証したもの

中国高等教育学歴認証報告（中国語版電子報告書）

『中国高等教育学生信息网（CHSI）』（https://www.chsi.com.cn）が認証したもの

【成績証明書】

中国高等学校学生成績験証報告（中国語版電子報告書）

『中国高等教育学生信息网（CHSI）』（https://www.chsi.com.cn）が認証したもの

認証機関以外からの認証結果は一切受け取りません。志願者本人または代理人が受信した電子認証報告メールの転送は無効となります。願書受付期間の最終日（必着）までに、福岡大学大学院事務課のメールアドレス（gakuin@adm.fukuoka-u.ac.jp）に認証結果が直接送付されるように手続きを行ってください。

⑵　第１次選考（書類審査及び出願資格審査）について

第１次選考では，出願資格の審査対象（38 頁「２出願資格」（注）参照）となる志願者については出願資格審査と書類審査を行い，それ以外の出願資格による志願者については書類審査のみを行います。各審査結果は，審査終了後本人へ通知します。

⑶　第２次選考検定料（入学検定料）の納入方法

第１次選考の結果，受験が認められた方は第２次選考検定料を所定の期日までに納入してください。納入方法に関する詳細は，第１次選考の書類提出時に別途指示します。

第２次選考検定料（入学検定料）	30,000円

⑷　出願上の注意

①　該当する出願資格に記載された条件の内容を必ず確認してください。

②　工学研究科の志願者は，「日本語能力試験」N2 レベル（２級）以上の日本語能力が必要です。但し，化学システム工学専攻及び博士課程後期の各専攻の志願者のうち，英語で講義を受けることを希望する方は除きます。

③　出願書類に不備がある場合は受理しないことがあります。記入漏れがないように注意してください。

④　出願書類の提出は，受付時に確認事項があるので，特別な理由がない限り窓口に持参してください。（国外志願者以外）
なお，国外志願者については，日本在住の知人を通じて出願書類を郵送しても構いません。

⑤　出願手続等に関する照会は，原則として志願者本人が行ってください。

⑥　志願票及び副票・受験票の「志望専修部門」欄は，各専攻の入学生を募集する専修部門（9～18 頁・29～33 頁参照）の中から１部門を選択し，その名称を記入してください。
「指導教員」欄には，志望する専修部門の指導教員１名の氏名を記入してください。
※機械工学専攻および資源循環・環境工学専攻の志願者は，「第２志望」欄も記入してください。

⑦　電子情報工学専攻及び建設工学専攻の志願者は，志願票及び副票・受験票の「受験科目」欄に，選択受験する専門科目の名称を記入してください。（6～7 頁「8　試験科目・試験時間」参照）
なお，受験科目の選択については，志望する指導教員の指導を受けてください。

⑧　秋季入学試験で入学定員に達した専修部門は春季入学試験を実施しない場合がありますので，春季志願者は事前に確認してください。（※確認先：大学院事務課）

⑨　一度払い込まれた第２次選考検定料（入学検定料）及び提出した書類（論文含む）の返還請求には応じません。

⑩　健康の状況について
疾病・障がい等により，受験時および修学上配慮を必要とされる方は，出願前のできるだけ早い時期に大学院事務課へ相談ください。（症状についての具体的内容が記載された診断書や障害者手帳のコピーを追加で提出してください。）

6　受験票及び受験許可書

※出願手続き完了者には,「受験票」を送付します。また，国外志願者には「受験許可書」[注)] を発行し，併せて送付します。

※試験日の５日前までに到着しない場合は大学院事務課へ連絡してください。

※「受験票」は入学手続完了まで保管してください。

注）受験許可書は，国外志願者が来日受験するために，志願者本人が本国において行なう出入国手続（受験を目的とする短期滞在ビザの取得）に便宜をはかるため発行するものです。

7　試験場・試験会場

福岡市城南区七隈八丁目19番１号　　福岡大学内

※試験会場は，試験日当日の午前８時30分に中央図書館西側１階入口（大学院エントランス）に掲示します。

※受験者は，午前９時までに試験会場に集合してください。

8　試験科目・試験時間

博士課程前期・修士課程は５〜７頁と同じです。ただし建設工学専攻〈社会デザイン専修〉の専門科目は7. 社会デザイン工学総合は必須（７頁参照）1. ～ 6. から１科目を選択してください。博士課程後期は27頁の一般入学試験と同じです。

※最終学校を卒業・修了・退学した後，入学時に日本国内での社会人経験３年以上の者は博士課程前期・修士課程は７頁，博士課程後期は27頁の社会人入学試験と同じです。

9　合　格　発　表

①　合格発表日時

秋季入学試験　合格発表	令和６年９月30日（月）午前10時
春季入学試験　合格発表	令和７年３月10日（月）午前10時

②　合格者の受験番号を掲示するとともに，合格者へ入学手続書類を郵送（簡易書留）します。不合格者への通知はいたしません。

◆ 掲示場所：大学院事務課前

③　福岡大学公式ホームページ内の「大学院個別サイト」（https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/）に合格者の受験番号を掲載いたします。

④　合否に関する電話での問合せには一切応じません。

⑤　出願書類及び入学手続書類等に虚偽の記載があった場合は，入学許可を取り消すことがあります。

10　入　学　手　続

※　入学手続の詳細は博士課程・修士課程は８頁，博士課程後期は27〜28頁の「10　入学手続」を参照してください。

個人情報の取扱いについて

本学では「個人情報の保護に関する法律」に基づき，「学校法人福岡大学個人情報保護規程」を定め個人情報の保護に努めています。「行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づく，「個人番号」および「特定個人情報」に関しても同様です。本学学生の個人情報に関する基本的な姿勢と取扱いについてご説明いたします。

1．法令の遵守と学内規程の整備

本学は，「個人情報の保護に関する法律」その他法令の規定を遵守すると共に，個人情報の取得，保管，利用など取扱いに関する必要な事項を定め，個人情報の適切な保護に努めます。

2．個人情報の取得

本学は，本学の学生から個人情報を取得する際には，あらかじめ利用目的を特定し，その利用目的の達成に必要な範囲内において，公正な手段により取得します。また，思想，信条及び宗教に関する個人情報は取得しません。

〈主な利用目的〉

〇学生募集，入学試験に関する業務
〇履修・成績管理に関する業務
〇入学，卒業，退学，休学等の学籍管理に関する業務
〇課外活動，健康管理に関する業務
〇奨学金に関する業務
〇授業料その他納付金等の収納・督促に関する業務
〇就職・進路支援に関する業務
〇教育改善のための教学情報の活用に関する業務
〇個人番号関係業務
〇一般社団法人福岡大学同窓会有信会の運営に関する業務
〇福岡大学父母後援会の運営に関する業務
〇その他学生生活，修学指導に関する業務

※詳しくは，大学ホームページに掲載している「学校法人福岡大学個人情報保護規程別表」等をご覧ください。

3．個人情報の利用

本学が保有する個人情報は，法令に基づく場合を除き，本人の同意を得ないで，定められた利用目的以外の利用や，第三者への提供は行いません。

4．個人情報の管理

本学は，個人情報の管理体制を整備し，個人データについては利用目的の達成に必要な範囲内において正確かつ最新の内容に保ち，漏えい，滅失又は毀損の防止など安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。

なお，個人情報の取扱いを外部に委託する場合は，委託先が個人情報の安全管理のために適切な措置を講じるよう監督し，その内容を委託契約に明記します。

5．個人情報の開示等

本学は，本人からの当該保有個人データの開示，訂正（追加，削除含む），利用停止の請求を受け付けます。

6．個人情報に関する問合せ先

本学の個人情報に関する苦情やご質問は，個人情報の内容によって受付窓口が異なります。大学公式ホームページの個人情報関連のページをご覧いただくか，下記あてにお問い合せください。

【問合せ先】　福岡大学　総務課

目次に戻る

福岡大学大学院　長期履修制度について

長期履修制度とは，職業を有している等の事情により，本来の標準修業年限（修士課程・博士課程前期＝２年，博士課程後期＝３年，博士課程＝４年）では履修が困難と認められる者について，長期履修学生として標準修業年限を超えて履修を可能とする制度です。

長期履修学生として申請するにあたっては，長期履修期間中の履修や研究方法等について，あらかじめ当該研究科・専攻（在学生は指導教員）に相談してください。

１．対象者

長期履修学生として申請することができる者は，次のいずれかに該当する者とします。なお，外国人留学生（在留資格「留学」を有する者）は申請できません。

（１）新たに本学大学院に入学（進学を含む）する者のうち，次のいずれかに該当するため，標準修業年限での履修が困難な者

①職業を有し，就業している者

②家事，介護，育児，出産等の諸事情を有する者

③その他，研究科長が相当の事情があると認めた者

（２）本研究科に在学する者のうち，次のいずれかに該当するため，標準修業年限での履修が困難な者

（在学中に，新たに標準修業年限での履修が困難となる事由が生じた場合。なお，標準修業年限における修了予定年次（最終学年）に在学している者は申請できません。）

①職業を有し，就業している者

②家事，介護，育児，出産等の諸事情を有する者

③その他，研究科長が相当の事情があると認めた者

２．長期履修期間

長期履修学生の履修期間および在学中に長期履修を開始することができる学年は次の通りです。

課程	標準 修業年限	長期履修期間	最長 在学年限	在学生長期履修 開始可能学年
修士課程・ 博士課程前期	入学時から ２年	入学時から ３年または４年	４年	２年
博士課程後期	入学時から ３年	入学時から ４年または５年または６年	６年	２年，３年
博士課程	入学時から ４年	入学時から ５年または６年	８年	２年，３年，４年

※長期履修期間は入学時を開始基準とします。

※長期履修期間は１年間単位とします。

※長期履修学生の最長在学年限は，標準修業年限での履修生と同じです。

※休学期間は履修期間に含めません。

※長期履修学生の早期修了（標準修業年限より短い期間での修了）はできません。

目次に戻る

３．申請手続

（１）申請期間

①**入学時から長期履修学生となることを希望する場合**

……**入学試験出願時**

②在学生が新たに長期履修学生となることを希望する場合

……開始を希望する前年度の１月末まで

（標準修業年限における最終学年在学者は申請できません。）

（２）申請書類

①長期履修学生申請書及び理由書（様式１）

②研究計画書（博士課程後期および博士課程のみ）（様式２）

③その他，当該研究科が必要と認める書類

※申請理由に応じて，長期履修を必要とすることを証明する書類等を提出していただく場合があります。

※申請書類は，大学院個別サイト（https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/）内の「入学試験」メニュー ⇒「長期履修制度」ページからダウンロードしてください。

４．学費等納入金

（１）入学時から長期履修学生となる場合

・基本的に標準修業年限の授業料等の総額を，長期履修期間の修業年数で按分した額が年額となります。

・２年目以降の学費等納入金のうち，「委託徴収金」の金額には多少の変動が生じることがあります。

（２）在学生が新たに長期履修学生となる場合

・基本的に標準修業年限の授業料等の総額から既に納入した標準の授業料等の総額を減じた額を，長期履修期間の残りの修業年数で按分した額が年額となります。

・２年目以降の学費等納入金のうち，「委託徴収金」の金額には多少の変動が生じることがあります。

５．結果の通知

（１）入学時から長期履修学生となることを希望する場合

・長期履修を希望する事由や研究計画等に基づき審査の上，入学試験合格発表時に合格通知とともに送付します。

（２）在学生が新たに長期履修学生となることを希望する場合

・長期履修を希望する事由や研究計画等に基づき審査の上，３月末までに通知します。

６．長期履修期間の変更（延長・短縮・取消）

長期履修学生として許可された者が，長期履修の期間の延長，短縮あるいは取消を必要とする事由が生じた場合は，指導教員の承認を得た上で，長期履修期間の変更を１回に限り願い出ることができます。

（1）変更の願出期間

・変更を希望する前年度の１月末まで

（2）変更願出書類

①長期履修学生変更願書及び理由書

・延　長（様式３）

・短　縮（様式４）

・取　消（様式５）

②その他，当該研究科が必要と認める書類

※申請理由に応じて，長期履修を必要とすることを証明する書類等を提出していただく場合があります。

（3）変更可能な長期履修期間と学年

変更	課程	長期履修期間 （変更前→変更後）	変更手続き可能学年
延長	修士課程・博士課程前期	入学時から３年→４年	１年又は２年
	博士課程後期	入学時から４年→５年	１年，２年又は３年
		入学時から４年→６年	１年，２年又は３年
		入学時から５年→６年	１年，２年，３年又は４年
	博士課程	入学時から５年→６年	１年，２年，３年又は４年
短縮	修士課程・博士課程前期	入学時から４年→３年	１年又は２年
	博士課程後期	入学時から５年→４年	１年，２年又は３年
		入学時から６年→５年	１年，２年，３年又は４年
		入学時から６年→４年	１年，２年又は３年
	博士課程	入学時から６年→５年	１年，２年，３年又は４年
取消	修士課程・博士課程前期	入学時から３年→２年（標準）	１年
		入学時から４年→２年（標準）	
	博士課程後期	入学時から４年→３年（標準）	１年又は２年
		入学時から５年→３年（標準）	
		入学時から６年→３年（標準）	
	博士課程	入学時から５年→４年（標準）	１年，２年又は３年
		入学時から６年→４年（標準）	

※延長は，変更前の長期履修期間における最終学年在学者は願い出ることができません。

※短縮は，短縮後に１年以上の修業期間がない場合は願い出ることができません。

※取消は，標準修業年限における最終学年（修士課程・博士課程前期＝２年，博士課程後期＝３年，博士課程＝４年）在学者は申請できません。

※変更は１回に限り願い出ることができます。

※取消を行った場合，あらためて長期履修学生に申請することはできません。

（4）授業料等納入金

※授業料等納入金（以下，「授業料等」）とは，「授業料」及び「教育充実費」を指します。

※在学中，毎年度納入が必要な学生健康保険互助組合費等の「委託徴収金」は授業料等には含まれません。

①延　長

・基本的に標準修業年限の授業料等の総額から既に納入した変更（延長）前の授業料等の総額を減じた額を，長期履修期間の残りの修業年数で按分した額が年額となります。

②短　縮

・基本的に標準修業年限の授業料等の総額から既に納入した変更（短縮）前の授業料等の総額を減じた額を，長期履修期間の残りの修業年数で按分した額が年額となります。

③取　消

・基本的に取消後は標準修業年限の授業料等年額になります。

・ただし，そこまでに納付すべき標準修業年限の授業料等の総額から既に納付した授業料等の総額を控除した額を，取消後の最初の年度に授業料に上乗せして徴収します。

（5）結果の通知

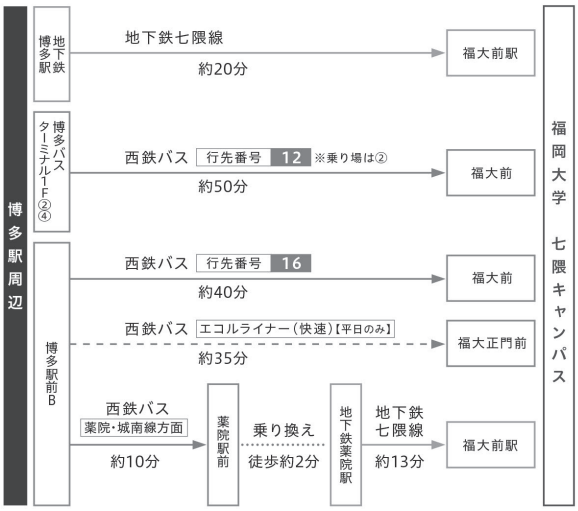
・変更を必要とする事由や研究計画等に基づき審査の上，3月末までに通知します。

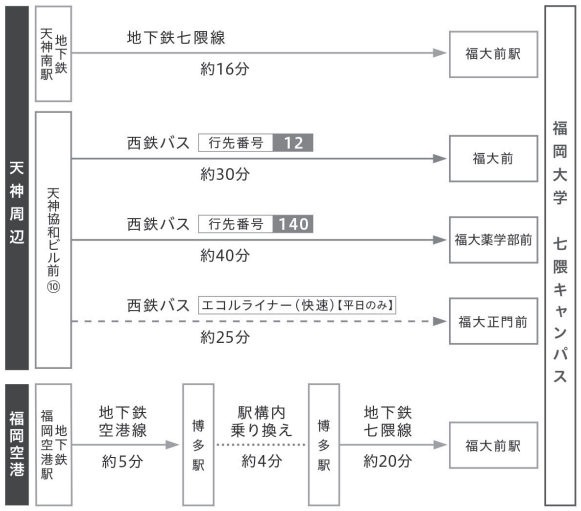
7．長期履修制度利用にあたっての注意

・独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与において，長期履修に応じた貸与は入学時に申請した場合にのみ適用されます。在学中の申請あるいは長期履修期間の変更等を行う場合は対象外となることがあります。

■福岡大学までの交通機関

■交通案内





※時間帯によって交通混雑が予想されますので、所要時間は目安としてください。

※バスの行先番号が同じでも行先が異なることがありますので、バス正面の行先(経由地)をご確認ください。

※公共交通機関の運行状況に変更が生じる場合があります。最新の情報については、以下ウェブサイト等からご確認ください。

● 地下鉄に関する情報…… 福岡市交通局 https://subway.city.fukuoka.lg.jp/

● バスに関する情報…… 西鉄バス http://www.nishitetsu.jp/bus/

[高速道路]

唐津方面からの場合

西九州自動車道(福岡前原道路)から都市高速道路環状線に入ります。野芥ランプで降りた後、福大トンネル出入口の手前を右折し、梅林中学校入口を左折します。500mほど直進した後、福岡大学病院東口交差点を直進します。

北九州および福岡県外(大分・熊本方面など)からの場合

九州自動車道の太宰府IC(インターチェンジ)から都市高速道路に乗り、月隈JCT(ジャンクション)を左折します。堤ランプで降り、国道202号線(福岡外環状道路)を2kmほど直進して福大トンネル出入口手前から右折し、福岡大学病院東口交差点を右に入ります。

福　岡　大　学　大　学　院

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号

電話 (092) 871-6631
大学院事務課　内線　2913～2916